

# 共読ライブラリー

KYODOKU LIBRARY

2019 — 2020

私は、読者である我々を  
大いに刺激するような書物だけを  
読むべきだと思う。——フランツ・カフカ

もともと声に自信があったから、  
こっそり落語の勉強を始めた。  
うちに講談社版の落語全集があったので、  
夜中ともなれば、ひそかに寢床の中などで  
ブツブツと棒読みをつづけた。——手塚治虫

本は読む前に見るものだ。——ウィリアム・モリス

いったいどちらが師なのか？  
著者か、それとも読者か？  
——ドウニ・ディドロ

読書は強烈な欲望である。——湯川秀樹

フォークシンガーの歌は、  
歌詞を何番かまで歌うだけなのに、  
一冊の本のようだった。——ボブ・ディラン

開館時間  
00  
ございましたら、  
尋ねてください。  
作動中  
oan  
ana

仕事  
MONDO  
3  
ワークスペース

東京  
MONDO

MONDO  
new books  
MONDO  
new books  
MONDO  
new books

MONDO  
MONDO  
MONDO

College MONDO  
カレッジ・モンドウ  
ゲストへの  
質問募集中  
【モニター・印刷】印刷費 一部無料  
【モニターのみ】郵送料 一部無料  
【印刷のみ】郵送料 一部無料  
※印刷費・郵送料は、本館にてお支払いください。  
※印刷費・郵送料は、本館にてお支払いください。  
※印刷費・郵送料は、本館にてお支払いください。  
MONDO question  
ASK YOUR QUESTION  
MONDO selection  
「本」と「モノ」の発見！  
ANSWER BY BOOKS  
3冊読んで質問すると、本で答えが返ってくる。  
3冊読んで質問すると、本で答えが返ってくる。  
3冊読んで質問すると、本で答えが返ってくる。

# 共読ライブラリー

2012年4月、「読書」を大学全体で推進する総合的なプロジェクトとして、共読ライブラリーは始動しました。

共感の時代に生まれたあたらしい読書のスタイルです。



# 冲永佳史

帝京大学 理事長・学長

## おきなが・よしひと

帝京大学理事長・学長

東京都生まれ。慶応義塾大学理工学部を卒業。  
同大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。  
現在、学校法人帝京大学理事長・学長。  
学校法人帝京大学 帝京大学短期大学学長。



## 「自分流」の未来を読書で切り開く

帝京大学開学50周年の2016年、  
図書館と読書の新しい可能性と学修支援を目指す  
〈共読ライブラリー〉もセカンドステージを迎えた。  
今なぜ、全学的プロジェクトとしての〈共読ライブラリー〉なのか。

帝京大学の理念は「自分流」である。  
自分流とは「自律的に考え、行動し、その結果に責任を持つ」生き方だ。  
そのためには、多くの本を読み「読む力」を鍛えなければならない。  
「心を読む」「体を読む」「社会を読む」「時代を読む」……。  
「読書」は未来に繋がるのだ。

そして「共読」は異なる価値観、違う意見、  
多様な視点を認め合うことで成立する。  
一人の読書が一つの中心をもつ真円なら、  
「共読」は二つの焦点を持つ楕円だろう。

帝京大学はラグビーの大学選手権9連覇を達成したが、  
ラグビーボールと「共読」の楕円はこんなところでつながっている。

楕円は多様な価値観を認め合う帝京大学の、  
そして〈共読ライブラリー〉の精神なのだ。

沖永佳史

# 松岡正剛

共読スーパーバイザー

まつおか・せいごう

編集工学研究所 所長、イシス編集学校 校長

共読スーパーバイザー

1944年京都生まれ。雑誌「遊」編集長、東京大学客員教授・帝塚山学院大学教授をへて現在に至る。80年代「編集工学」を提唱し、日本文化・政治経済・歴史哲学・自然科学・宇宙物理・神話宗教・デザイン・意匠図像・AI技術・サブカルなど、様々なジャンルを縦横無尽につないで新たな価値を見出し、その成果をプロジェクト監修、総合演出、企画構成、メディア・プロデュースほかで展開。国内外で1,000件以上を手がける。

2000年、日本文化研究の第一人者として「日本という方法」をきっかけ、「連塾」「蘭座」「本茶会」などの日本文化継承塾や文化サロンを多数開催。トップクリエイターから伝統芸能関係者、最先端科学技術者から文化人・技術者まで現在も幅広い層に影響を与える。

近年は、日本を代表する「読書のプロ」としてブックウェア事業を拡大。編集的な選書と読書空間の企画演出はつねに話題をよぶ。リアル書店の未来像となった伝説の実験的書店「松丸本舗」、帝京大学「共読ライブラリー」、銀座「MIRROR展」、無印良品「MUJIBOOKS」、近畿大学「アカデミックシアター」ほか。独自の活動としては、①壮大なブックナビゲーションサイト「松岡正剛の千夜千冊」。全集化や文庫化も進むなか2000冊突破を目指し更新中。②ネット上のラーニングシステム「イシス編集学校」。本をつかって編集力を引き出す活気的な学校として高評価を受けている。



## 共読・共視・共感の時代へ

私は「読書日本」が広がっていくための仕事をずっとしてきた。誰よりも先にインターネット上に「本を読むサイト」を連載し、いくつかの書店づくりや図書館づくりにもかかわり、多くの本の著者や出版社とも交わってきた。このような仕事で中心に据えてきたコンセプトとスタイルが「共読」だった。

共読とは「本を共に読む」という意味である。そんなことできるのか、みんなが集まって本を読むのか、邪魔されて読みたいくない、感動が薄まるのじゃないかと訝る向きもあるかもしれないが、それはいささか量感が狭い。実は共読こそ読書の本来なのだ。

もともと私たちは母親の絵本や童話の「読み聞かせ」で育ち、学校で同じ教科書を読み、毎朝、同じ新聞を読み、同じようなベストセラーやマンガや文庫と一緒に読んできた。本だけでそういうことをしてきたのではない。実のところはテレビも「共視」であり、スポーツも「共観戦」なのである。文化は「共感」をモットーに広がってきた。

読書は「音読」の時代が長く、ルネサンスから18世紀くらいまでは、みんなが声を出して読んでいた。やがて公衆空間が発達して、しだいに「黙読」が広まったのだが、学習のためには音読はずっと欠かせないものになっている。江戸時代では寺子屋から藩校まで、みんなが「会読」をした。むろん大学でも「講読」や「ゼミ読み」がある。読書の歴史はさまざまなコモン・リーディングで育まれてきたのだ。

もちろん読書は一人ずつが堪能するものである。一人ずつに本の訴えているものがやってくるのが、読書の醍醐味だ。しかし、あらためてよく考えてほしいのだが、そもそも一人で本を読んでも、そこには著者との共読がおこっていたのだし、編集者が用意した目次や見出しや「注」との共読が進んでいたのだ。本はそもそもが共読的にできあがっているツールなのである。

そのツールがもつ共読性を、最も豊富に、最も大きく、最も多彩に組み上げたのが図書館というものだ。図書館の歴史は古く、さまざまな工夫もされてきた。図書館はそれ自体が巨大なブック・コモンズであり、複合的なブック・コミュニティとして継続してきた。けれどもすでに図書館は公衆空間としてのいくつものルールをもたざるをえなくなったため、そこで声を出しあったり、討議をしたり、動きまわったりはできなくなった。

そこへネット時代が到来した。誰もがスマホで「世界」と接続できるようになった。そうであるのなら、図書館も新たな脱皮と冒険をするべきなのだ。図書館の本を活用し、すぐれた先達や学生リーダーたちとともに、新たな「共読するコモンズ」や「共読サイト」や「共読の出店」や「共読アプリ」をつくるべきなのだ。

こうしたなか、帝京大学のMELICに「共読ライブラリー」が発動したのは、まことによるこぼしい。すでに着々と成果を上げている。学長をはじめとする図書館関係者の努力が稔ってきたのだ。私の仲間やスタッフたちもお手伝いをさせてもらっている。このレポートはその成果の一端を示している。いまや大学は「変化を読む力」を育むセンターとしての活動が期待されている。帝京大学の「共読ライブラリー」がそうした時代社会の要請に応えるものとしても、さらに充実し、さらに発展していくことを希っている。

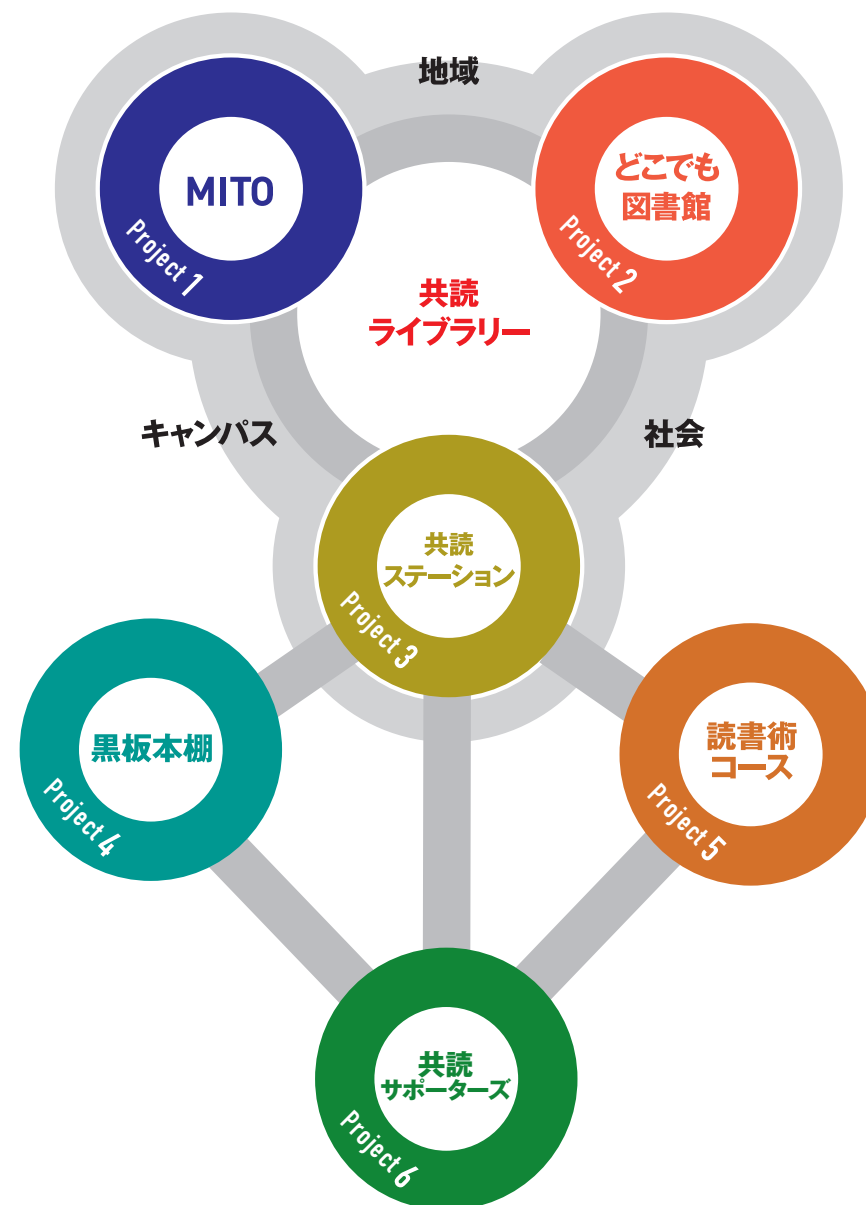


# 6つの プロジェクト

共読ライブラリーは  
キャンパスと地域と社会をつなぐ  
6つのプロジェクトを展開しています。

2016年からは、メディアライブラリーセンター（MELIC）を拠点に地域やキャンパスの読書コミュニティをつなぐ「どこでも図書館」や、企業およびクリエイターと連携する「MITO」が始動し、6つのプロジェクトが躍動しながら共読ライブラリーを展開しています。

- 1 MITO（ミト）  
企業やクリエイターと一緒に「未来の図書館」を編集&デザイン
- 2 どこでも図書館  
キャンパスや地域と連携し、人と本のあたらしい関係を発見
- 3 共読ステーション  
共読環境、共読メディア製作、サイン計画、空間／OPAC・WEB設計、共読ツール製作
- 4 黒板本棚  
問答書架、棚づくりワークショップ、MONDOストリート、ブックバトン
- 5 読書術コース  
オンライン読書術コース  
読書術ワークショップ
- 6 共読サポーターズ  
MELIC BOOK CLUB（地域連携、教職員・卒業生・社会人連携）  
イベント・ワークショップ



# 1 MITO (未来図書館プロジェクト)

**MITO (未来図書館)は学生とともに読書の未来を巡るさまざまなアイデアを検討し、企業やクリエイターを交えて、読書の常識を超える多様なブループリント(青写真)とプロトタイプ(試作)を生み出すプロジェクトです。**

学生の「問う力」を引き出し、未来の図書館を編集します。

MITOは、外部連携プロジェクトとして  
それぞれの道で活躍するデザイナーや作家、  
アスリートや企業人など、各界のプロと一緒に  
さまざまな「超読書」のアイデアを検討し、  
あたらしい読書体験のための思索と試作を進めています。

第1弾 色覚絵本——からだで読む

第2弾 読書服——読むスイッチ



MITO第1弾

# 色覚絵本

——からだで読む

社会の課題を超えて、ともに読み合う本づくり。

MITOの第1弾では、  
「からだで読む」をテーマに、  
本の読み方の可能性をひろげます。

未来の図書館が読者の多様な個性を  
大切に作る場所であってほしいという思いから、  
「色覚絵本」がうまれました。

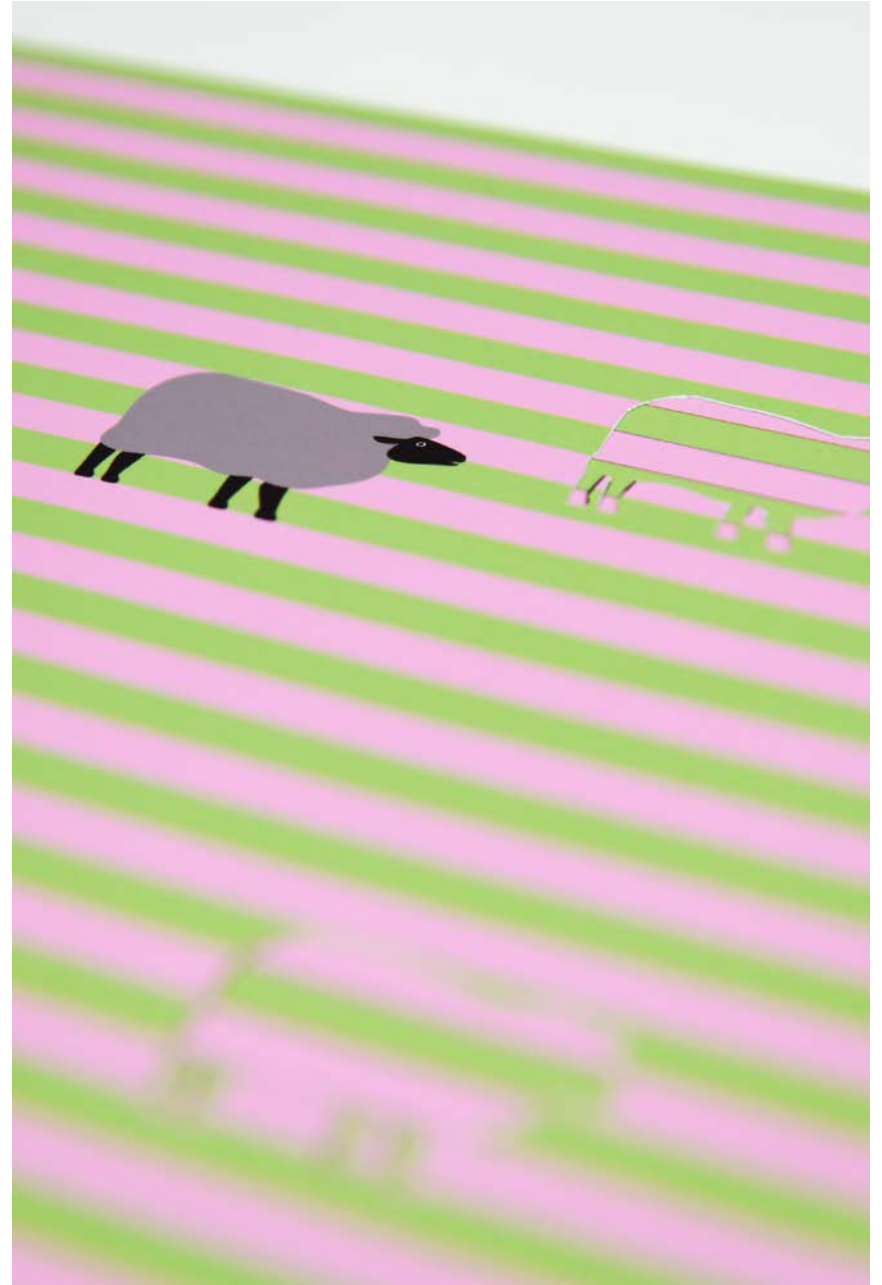
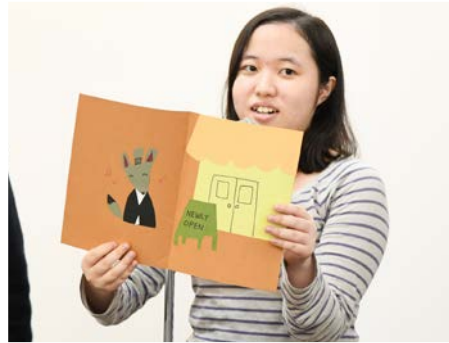
先天的に色がちがって見える人は、日本の人口の約5%、  
男女合わせて約320万人いるといわれています。  
「正しい色の見え方」などないのに、  
色弱、色盲、色覚異常、色覚障がいと呼ばれてきました。

「色覚絵本」は、一般色覚者と色弱者が  
ともに読み合う本です。  
造本作家として国際的に活躍し、  
目の不自由な人が楽しむ点字絵本も手がけてきた  
駒形克己さんといっしょに作り上げます。

共読サポーターは、  
色弱者には見分けにくい色紙を組み合わせる  
駒形さんの「本づくりワークショップ」を通して、  
様々な色の見え方を学び、  
表現する力・発信する力・想像する力を磨きました。

〈写真〉p.29:本づくりワークショップ(第1回 2018.9.19/第2回 2018.9.28)

〈写真〉p.30:駒形克己さんが試作中の「色覚絵本」



MITO第1弾 デザイナー

# 駒形克己

日本のムナーリと称される、紙の本づくりの神さま。

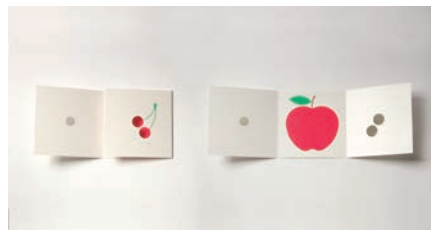
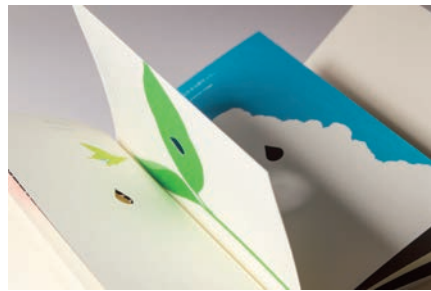
こまがた・かつみ

造本作家／デザイナー

1953年静岡県生まれ。(株)日本デザインセンターを経て、1977年渡米。ニューヨークCBS本社、シエクターグループなどで、CIデザイン、グラフィックデザインを手掛け、1983年帰国。1986年ONE STROKE設立。以後多数の絵本を出版。1990年ニューヨークMoMAミュージアムショップでの展示販売をきっかけにその活動は世界へと広がり、1994年のフランスのリヨンを皮切りに本の個展やワークショップ活動を開始し、現在も世界各地を巡回中。2012年にフランスのアミアン市にある美術学校の依頼で「手話絵本」を制作し、その翌年には、手話絵本の制作過程に密着した駒形克己のドキュメンタリー番組がWOWOWプライムにて放送され、同番組は国際エミー賞にノミネートされる。企業のCIを手掛ける中で、滋賀県にある和菓子メーカーや、板橋区のコミュニケーションデザインに関するアドバイザーとして、区政概要、広報物全般、区役所内の展示など、さまざまな問題解決に取り組んでいる。また講師として、スペイン、イタリア、フランス、イギリス、メキシコなど世界各地で後進の指導にあたり、日本では2014年より、立教大学、女子美術大学で実習を中心に教鞭をとっている。受賞歴は、パリ PRIZE FOR CREATIVITY、2002年スイス国際児童図書賞、2006・2007年GOOD DESIGN賞、2000年・2010年・2016年ポローニャRAGAZZI賞 優秀賞、他受賞多数。主な著書に、『Little Tree』『かげら』『Blue to Blue』『雲ひとつ』『ぎゅぎゅぎゅー』ほか多数。

〈写真〉p.33:駒形克己の絵本作品世界 / p.34:駒形克己ポートレート





MITO第2弾

# 読書服

——読むスイッチ

料理人にはエプロン、バレリーナにはチュチュ、読書家には……

MITOの第2弾は、本を読みたくなる気分をテーマに、  
読書のスイッチを入れる「読書服」を開発します。

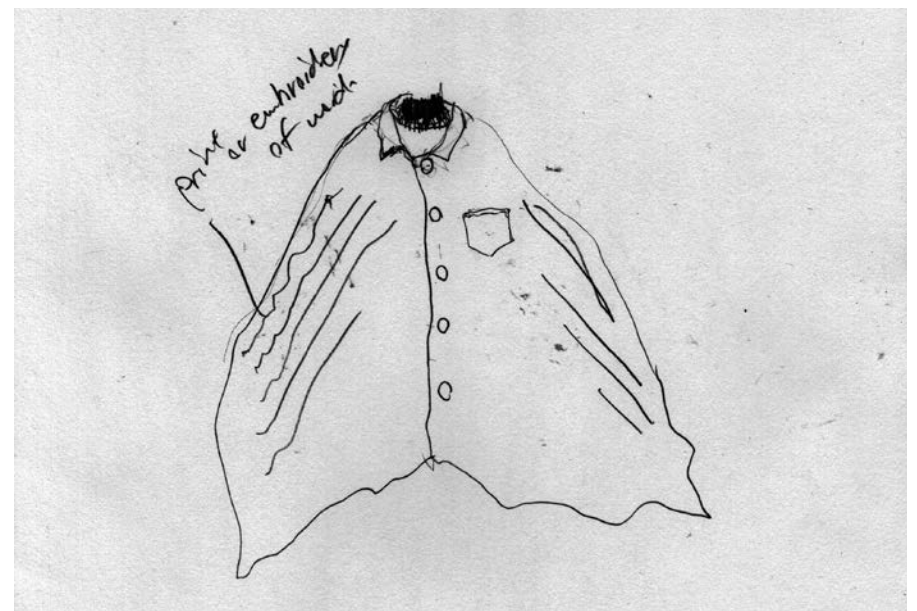
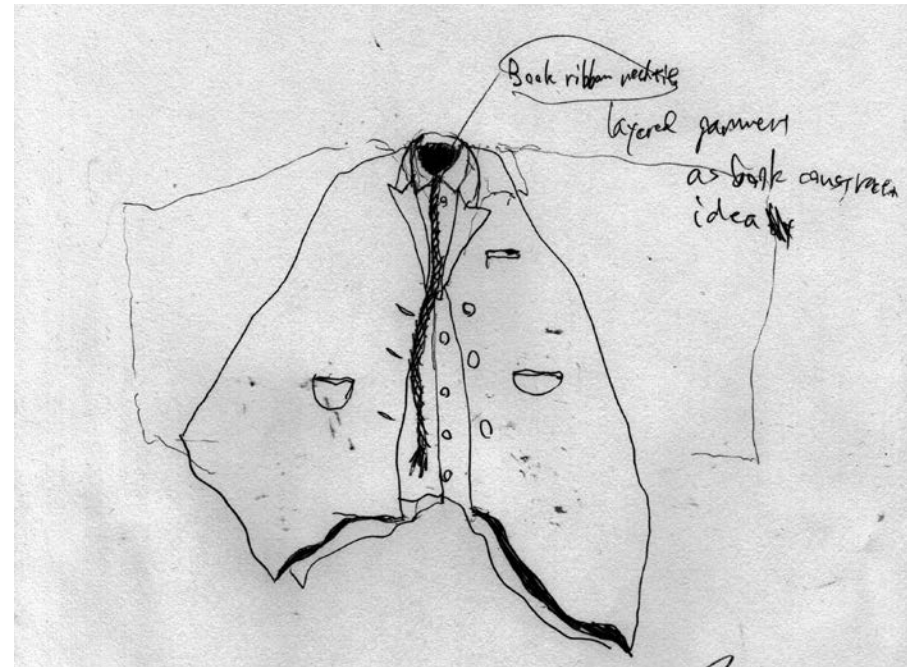
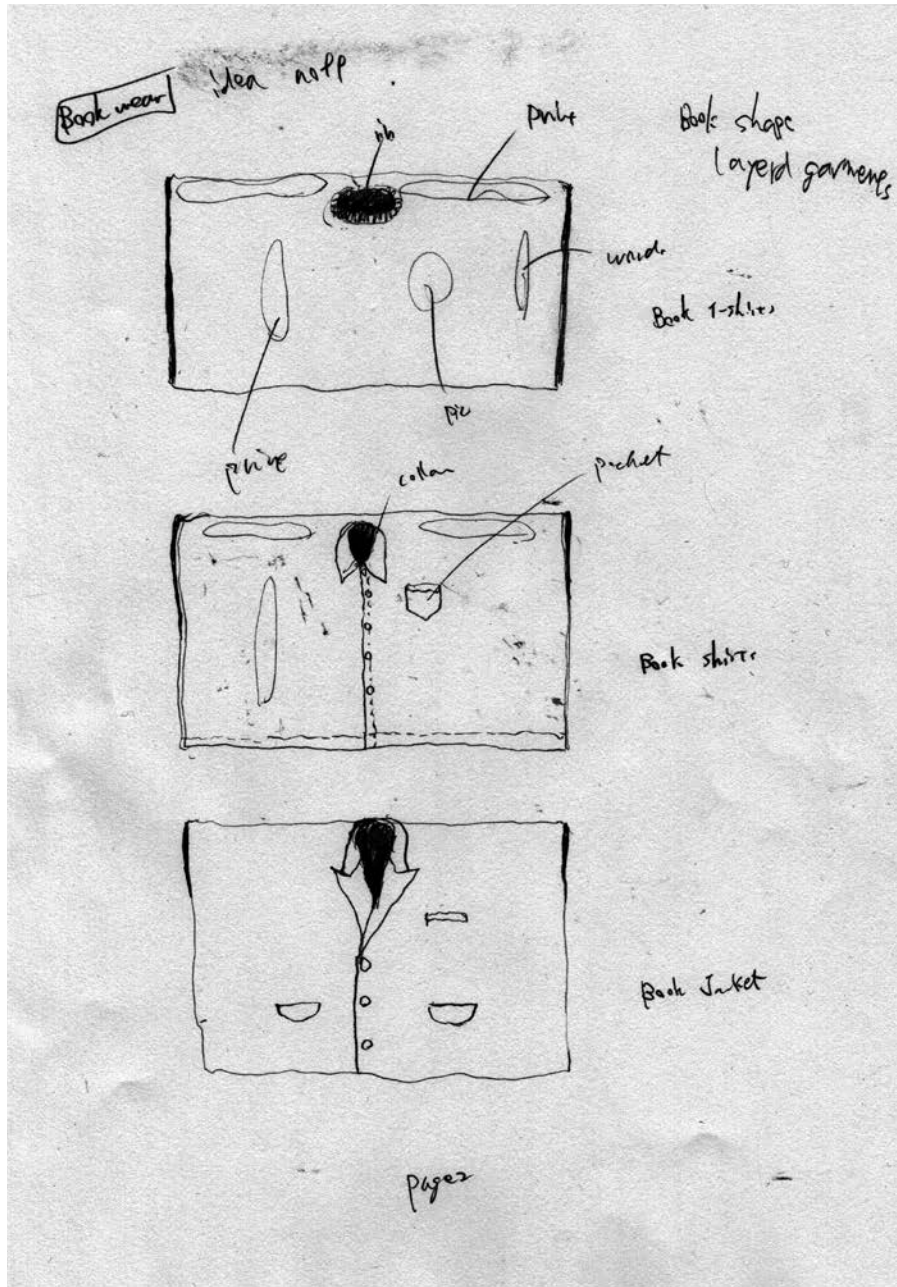
料理人にはエプロン、バレリーナにはチュチュ、  
お祭りにはハッピがあるように、  
プロフェッショナルな仕事には心と体をモードチェンジ  
するための特別なウェアがあります。本の世界には  
読書モードに入るためのリーディング・ウェアがありません。

見開きページや花ざれやスピンといった  
本の普遍的なフォーマットから発想した「読書服」は、  
本を着るものに変え、服を読むものに変えます。  
共読サポーターは、自分の好きな本を身にまどって、  
新しい読書のスタイルを発見します。

今回いっしょに「読書服」を手がけるのは、  
コンセプチュアルな服作りや  
編集的な切り口のワークウェアで  
注目されているNY在住の川西遼平さんです。

未来にだれも本を読まないディストピアが起こったとしても、  
一人が一冊を守り、百人が百冊を象徴するような  
未来の共読ソサイエティーを見据えています。  
100人、100冊、100服。

〈画像〉p.37-38:川西遼平さんの「読書服」スケッチ(構想段階)



MITO第2弾 デザイナー

# 川西遼平

NY在住、ファッションの未来を切りひらく型破りなデザイナー。

かわにしりょうへい

クリエイティブディレクター／ファッションデザイナー

1987年鳥取県生まれ。2011年にロンドンのファッション名門校セントラル・セントマーチンズのニット科で学士号を取得。その後《ユニクロ》のフェローシップ「Tomodachi-Uniqlo」奨学金によってNYのパーソンズ美術大学に入学、2015年修士号を取得。学生時代に、エドワード・サイード、カール・マルクス、ジル・ドゥルーズを耽読する。オリエンタリズムの理論と美学に関係性があると確信し、直感的なものづくりではないロジカルな服作りを実践し、次世代のデザイナーとして世界から注目されている。2016年にニューヨークで立ち上げたブランド《ランドロード》でクリエイティブ・ディレクターに就任。2017年MOMA「Is Fashion Modern?」展、MUSEUM OF ART AND DESIGN「fashion after FASHION」展に作品提供するなど海外を拠点に活躍中。同年、仕立て職人、彫金師、ジュエリー職人、革職人、グラフィックデザイナー、クリエイティブディレクターなど、異なる領域で活躍する若手作家が集い創設した新たなブランド《LES SIX (レシス)》を立ち上げた。

〈写真〉p.41:川西遼平デザインファッションブランド LANDLORD 他

〈写真〉p.42:川西遼平ポートレート



# 2 どこでも図書館

キャンパス全体を「ひとつの図書館」としてつなぐ活動です。

MELICを飛び出して、  
キャンパス内の教室や学習室に  
本をデリバリーする仕組みです。

先生の依頼で、教室や学習室まで  
本を出前する「オカモチ」は、  
実際に料理を持ち運ぶときに使われる  
俵匳式の軽くて丈夫なアルミ製の  
岡持ちをリユースしました。

メーカーに開発を依頼した  
本棚付きの三輪自転車「ブックル」は  
キャンパスや地域のどこへでも出動し、  
そこに本の市を立てます。

〈写真〉p.45:本棚付き三輪自転車「ブックル」

〈写真〉p.46:本を出前する「オカモチ」



# 3 共読ステーション

共読から内発する、本と出会う仕掛けづくり。

人と本をつなぐ新しい場づくりは、  
共読ライブラリーの使命です。

2012年4月に、最初の拠点として、  
MELIC1階のエントランスエリアに6台の  
「黒板本棚」を導入し、翌年、MONDOストリート、  
MONDOルームも登場しました。

毎年のように、ひとつひとつ、共読環境を整える  
ツールを増やしながら、学生、教職員、来館者が  
本と出会う仕掛けづくりを強化しています。

2018年には、新校舎棟SORATIO SQUAREに  
「学び」をデザインする新しいラーニングcommonsとして、  
ACT3、ACTrium（アクトリウム）が誕生。

現在、キャンパスに点在する共読活動を束ね、  
共読のホームベースをつくるために、MELIC1階と  
地下1階メディアラウンジの改装計画を準備中です。



## キーボックス

共読ライブラリーでオススメする「キーブック(鍵本)」は MELIC1階エントランスの黒板本棚群にあつまり、そこから「キーボックス」とセットで、館内の書架を循環します。

## ACT3

共読の理念で学びの空間をデザイン。発想を刺激するしかけと、アイデアを形にするツールで満載の「学びと創造の工具箱」。黒板本棚メソッドによるリコメンドと選書が学生の創造力を刺激します。

## ACTrium

「遊び」を「学び」に変えるプレゼンテーションステージ。そこは全員が主役になれる学生たちの晴れ舞台。学生と教員のあいだに境界を設けないデザインで、コミュニケーションが連鎖するステージを創出。

### 共読ライブラリー 空間デザイナー

## 東亨(ひがしとおる)

スペース・エディター / 株式会社HIGASHI-GUMI 代表



本を使って「書いて、話して、聞いて、見て、読む」という行為を徹底的に空間要素に置き換えました。デザイナーがデザインしきるのではなく図書館に関わる人をデザイナーにすることを心がけ、書架照明、黒板塗装、マグネットツール、ホワイトボード、ロール紙等を準備。遊び感覚で使えば使うほど自然に学びを創出できる空間を目指しました。年々「知」が蓄積していると感じます。

### 共読ライブラリー グラフィックデザイナー

## 美柑和俊(みかんかずとし)

グラフィック・デザイナー / 株式会社MIKAN-DESIGN 代表



図書館にこそ、アイデンティティとしての「モード」が必要な時代です。そのためには、ロゴやビジュアル・アイデンティティ (VI) といったブランディングの導入、またそれぞれの図書館にマッチしたサインデザインを考えなければなりません。それらはより図書館利用者の能動的な行為を促すとともに、図書館員の誇りの旗印ともなるはずで

〈写真〉p.50: (上) MELIC1階の黒板本棚とキーボックス。(中) ACT3 (下) ACTrium



# 4 黒板本棚

本は、あらゆる悩みとその対処法が  
すでに書かれている  
「問い」と「答え」の宝庫です。

恋も仕事も人生も、「問い」と「答え」の問答ゲーム。

黒板本棚プロジェクトでは、問答をコンセプトに  
6種類のコミュニケーションによって、  
学生の悩みや疑問に本で答えています。

### Special MONDO

学生のリアルな悩みに対して読書家著名人が本を通してアドバイスする問答書架。これまで、又吉直樹さん、蒼井優さん、知花くららさん、水道橋博士さん、伊坂幸太郎さん、成毛真さんが、学生との問答に参加しました。

### Career MONDO

教員・職員・OB・OGが現役学生のために、キャリアを切りひらくヒントをリcommendカードと一緒に教えてくれる問答書架です。

### Teikyo MONDO

帝京大学の仲間と交流する問答書架。サポーターが集う「問答ルーム」や、OB・OG、他大学の学生とのさまざまな問答を展開。

### Life MONDO

キャリアよりも長い目で、生きる知恵やヒントをつたえる問答書架。毎年テーマを変えながら、本を通して日常の世界をひろげます。

### New Books

職員が週替わりで「旬の本」を紹介する問答書架。図書館職員が渾身のチョーク描きでみせる人気の棚です。

### MONDO ストリート

MELICの3階と4階に、ずらりと並ぶ「MONDOストリート」は、学生が利用者にオススメの本を紹介するコミュニケーション本棚です。



# 読書家著名人 との問答



芸人 又吉直樹さん  
女優 蒼井優さん



**問** わたしは人を笑わせるのが好きなのに、いつもスベってしまいます。笑いのコツみたいなものを、ぜひ教えてください。——はやて(初等教育学科4年)

**答** 太宰治『ろまん燈籠』新潮文庫

スベるのは「ボケる」からじゃないかな。笑いって、笑わそうと意気込んでるのが見えると、面白くないんです。正直にすべてのものに反応すればいい。ぼくら芸人が変なことを言うときも、笑わせようっていうんじゃなくて、その瞬間ほんとうにそう思っているんですよ。はやてさんも「私は笑いのセンスがありません。だけどチャレンジします」って宣言したらどうですか。みんなも感情移入できるし、距離感も縮まる。失敗しても、失敗したことが笑いになります。『ろまん燈籠』を読んでみてください。ここにある「服装に就いて」など笑えます。

——又吉直樹

**問** その髪型は、ツッコミ待ちですか？  
——伊吹(スポーツ医療学科1年)

**答** カフカ『変身』新潮文庫

昔から散髪が恥ずかしくて、髪型にはかなり悩みました。友達が散髪したのを見るのも恥ずかしかった。目が合うと「えっ」で顔をするでしょ。気にしてないフリをするのも、されるのも嫌でしたね。カッコイイ髪型も抵抗があったので、迷ったあげくオカッパ頭にしたら、「気持ち悪い」って苦情がきて…けっきょく好きな人の髪型にすることにしました。その当時、ガンバ大阪のサッカー選手で、ボサボサなのに色気のあるプレーをしていた磯貝選手みたいになりたくてパーマをあてたんですけど、だいふ髪ものびたし、ツッコミ待ってます(笑)。

——又吉直樹

**問** もしもタイムマシンがあったら何をしてみたいですか。  
——鈴木(史学科4年)

**答** 『よくわかる天の川銀河系』ニュートンムック

40億年後、わたしたちの住んでいる銀河系と隣のアンドロメダ銀河系が交差するといわれています。もしもタイムマシンがあったら、その瞬間に立ち会いたいです。その瞬間を見たいと、ずっと父が言っていたので。父は「天文ガイド」という雑誌が好きで、自分で細工した天体望遠鏡も持っていました。寒い夜にいつも星を見に外に連れていかれて、当時は関心がなかったからイヤでした。上京してから、どれだけありがたかったんだろうって思うようになって、今でも時々このサイエンスマガジンを読んでいます。

——蒼井優

**問** 20歳のときに読むとよい本はありますか。  
——ひとみ(教育学科2年)

**答** 星野道夫『旅をする木』文春文庫

わたしは太宰や谷崎や芥川を読んでいた。でも、ひとみさんへのオススメは、星野道夫さんの『旅をする木』です。繊細で、鋭くて、やさしい言葉で綴られていて、読むたびに勇気が湧く一冊です。この本と出会って、その瞬間にいる場所のことを、地球大で想像するようになりました。東日本大震災のときも、アラスカの海をこころに浮かべました。シェイクスピアの『マクベス』に「ここだけではない」という一節があります。じぶんが生きるべき場所は、ここだけではない。だから何ごとも固執しないこと、その勇気をもつことが大切だと思います。

——蒼井優



# 読書家著名人 との問答



漫才師 水道橋博士さん  
モデル 知花くららさん  
作家 伊坂幸太郎さん  
実業家 成毛眞さん

**問** 誰かと遊ぶより一人でいるほうが楽しいのですが「大事な時期に友達に恵まれなかった」と後悔しないためには、どうすればいいですか？  
——青太郎(社会学科3年)

**答** 竹中労『ルポライター事始』筑摩書房

僕が孤独だったときにもっとも励まされた本です。フレーズのキレがいい本で、「人は無力だから群れるのではない。群れるから無力なのだ」という一節にやられました。振り返ると、一人でいる時期がなければ、僕はたけしさんのところに行こうとは思わなかった。いまごろ実家の商売を継いでいたと思います。だから、若いころに一人でいたことに、後悔はないですね。むしろ、「よくぞ引きこもってくれた」とも思います。少なくとも本を読んでも時間そのものっていうのは孤独ではない。本を読んでも時間は誰かとの対話なんですよ。本当に。

——水道橋博士

**問** 今まで読んだ本の中で“これはだれが読んでも泣ける”という本はありましたか。  
——かとう(初等教育学科2年)

**答** 河野裕子・永田和宏『たとへば君 四十年の恋歌』  
文藝春秋

これは短歌の歌人である河野裕子さんが乳がんで亡くなられる直前まで歌をつくり続けて、同じく歌人である旦那さまと歌のやりとりをなさっていた、それを収録した本です。もう本当に、ほんとーに、ぼろぼろ、ぼろぼろってぼろ泣きです。こらえるのが本当にたいへん。「はあ、ひさびさにこんなに水分出たー」ってなりました。わたしはこの本がきっかけで、自分でも短歌を始めるようになりました。そして人生のパートナーがほしくなります。本当にオススメなので、ぜひ手に取ってほしいです。読む場所は選んでくださいね(笑)。

——知花くらら

問

来年から社会人になります。新しい環境へ行く後押しになる本を教えてください!

——かまいたち(社会学科4年)

答

津村記久子『とにかくうちに帰ります』新潮社

ぼくは30歳くらいまでシステムエンジニアとして働いていましたが、働くって大変だと思います。『とにかくうちに帰ります』を読むと、社会人の日常を味わえます。本の中では会社生活が描かれているんですが、そこではちゃんと人間関係があって、いろんな(楽しかったり、鬱陶しかったりする)人とのつながりがあります。社会に出ると「緊張した日々」が待っているだけ!というような恐怖がありますが(僕はありました)、津村さんの小説を読むと、「緊張とはまた違う、緩い日常もある」と感じられるんじゃないかな、と思います。

——伊坂幸太郎

問

失敗して落ち込んだ気持ちの時に、前向きな気持ちになれる本を教えてください!

——あい(日本文化学科4年)

答

峠恵子『冒険歌手』山と溪谷社

『冒険歌手』を読むといいと思います。著者は、もともとすごい歌手なのに、自分は「リア充」すぎる、ということであえて危険な冒険に出るんです。ただし、冒険が目的の冒険なので、ニューギニアにヨットで渡って、オセアニア最高峰の高山をロッククライミングするという、めちゃくちゃな話なんです。もちろん途中で何度もいのちの危険に遭う。逆説的ですが、失敗したときや落ち込んだときは、極端に前向きな人の本を読むのがいい。そうすると、前向きすぎてもケガをする、落ち込むのだってよいじゃないか、と気持ちが楽になるんです。

——成毛眞



# 先生との問答



センセイが夢中になって読んできた本たち。

学部教育の現場ではなかなか知ることができない、  
先生が学生時代に夢中になった本や、  
OB・OGが後輩にオススメする本があつまります。

先生が大学時代に出会って欲しい一冊をオススメする  
直筆のリcommendカードも、7年間で740枚になりました。

〈写真〉p.65:先生の本棚とコメントカード付きの棚

〈写真〉p.66:先生直筆のコメントカード(ブックパトンのスタンプ付)





# 帝京生との問答



黒板本棚が磁石になって、本と人を引き寄せてくれます。

これまでに、近隣の中学生や海外からの留学生と  
棚づくりワークショップを体験したり、帝京大学の卒業生で  
元プロ野球選手の里崎智也氏(千葉ロッテマリーンズ 捕手)と  
本棚交流するなど、キャンパスの内と外で、  
多様なつながりを育んでいます。

MELIC1階に設置された部室のようなMONDOルームは、  
共読サポーターが「棚づくり」の腕を磨くアトリエであり、  
技を競い合うステージです。  
「つながり」「涙」「はじまり」「冷」など、選書テーマを考え、  
本を選び、展示し、発表し、評価し合っています。

〈写真〉p.69:TeikyoMONDO棚 / p.70:「MONDOルーム」とサポーター選書



# 特集企画棚



独自の選書設計による文脈棚は、3冊が基本単位です。

キャリアよりも長い目で、生きる知恵や  
ヒントをつたえる問答書架。

これまで「東京」「五感」「クリニック」「トラベル」

などの多様なテーマで、

さまざまな視点から世界を読み解く

ジャンル横断型選書を展開してきました。

〈写真〉p.73:テーマ「東京」「共読クリニック」「共読トラベラーズ」の特集企画棚

〈写真〉p.74:テーマ「五感」の特集企画棚



# 新着本棚



月曜日は朝から棚づくり。週替わりの人気棚です。

週替わりで「いま旬の本」を紹介する問答棚。  
通常の「新着本棚」とは異なり、  
図書館職員がイチ押しの本を  
自分の言葉で黒板に手書きする景色は、  
MELICの風物詩になっています。

## 立木加奈子 (MELIC職員)

世界が広がる本と出会えるように、あえて違和感のある1冊を差し込んでみたり、  
毎回試行錯誤しながら選書しています。展示の翌日はソワソワと棚をチェック。目  
の前で学生が本を手にとった時など、心の中でガッツポーズしています。

## 斉藤友李 (MELIC職員)

はじめに目次読書法で大まかに内容をつかんで、描くときはイラストを入れたり、  
配色に気をつけます。最近、MONDOストリートで上手に描いている学生も参  
考にしています。自分が描いた「面白いと思った一文」を読んで、どんな学生が借  
りてくれるのか、次の日に棚をチェックするのが楽しみです。



# MONDOストリート

MONDO  
St.

書棚の側面から、新しいコミュニケーションが生まれています。

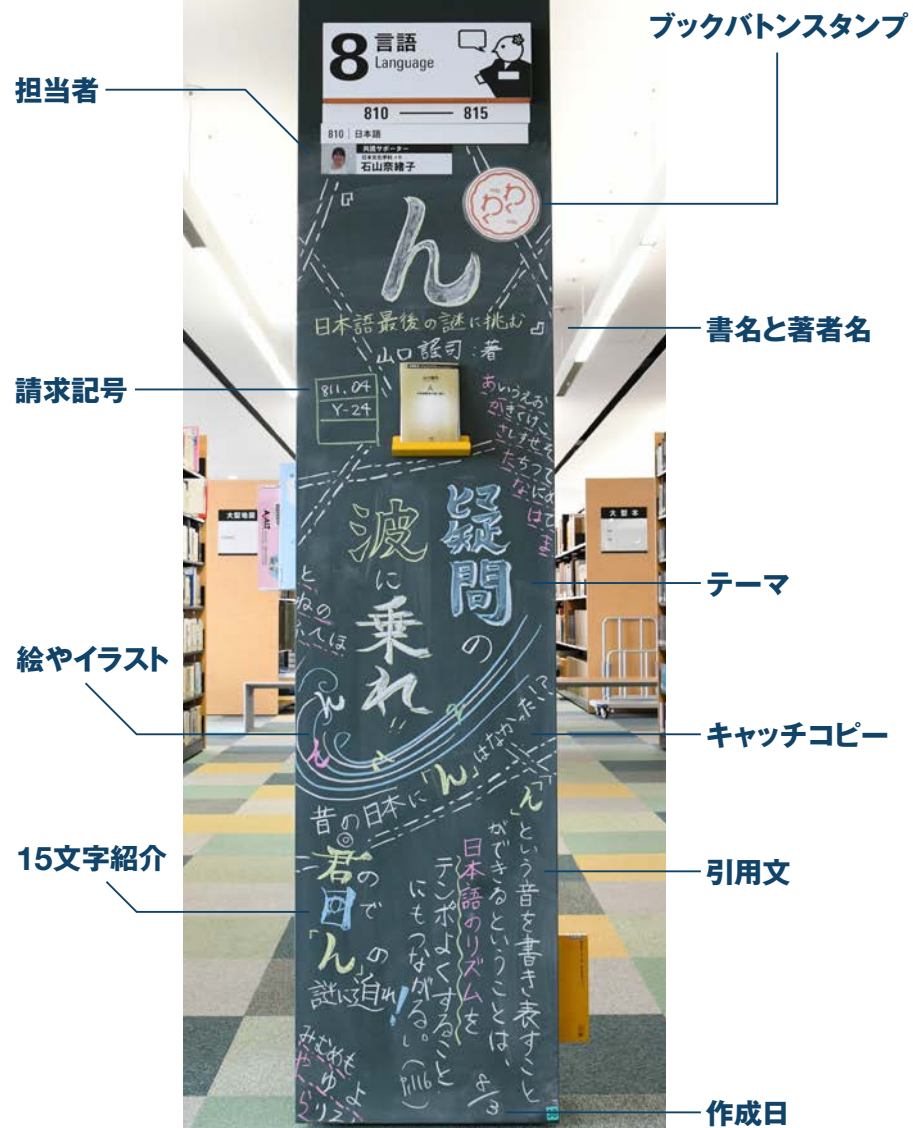
MELICの3階と4階にずらりと並ぶ「MONDOストリート」。  
それまで分類番号を表示していた書棚の側面を、  
コミュニケーションするボードとして見直し、  
黒板仕様にリノベーションした共読環境です。

共読サポーターがそれぞれの棚を担当し、  
年4回のテーマに沿って、棚から一冊を選び、  
内容を読み解き、引用文を抽出し、黒板を使って  
オススメの内容を手書きでプレゼンテーションします。

オススメ内容の取り出し方や書き方には「型」があり、  
情報を読み解く「型」の習得を通して、  
学生ひとりひとりが「自分流」の情報編集術を磨いています。







# ブックボタン

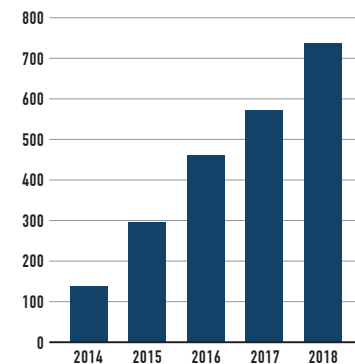
図書館で本を返却する時に、  
「わくわく」「ぼろぼろ」「きゅんきゅん」などの  
擬音語・擬態語スタンプを押して、  
次の読者にボタンをつなぐ企画です。

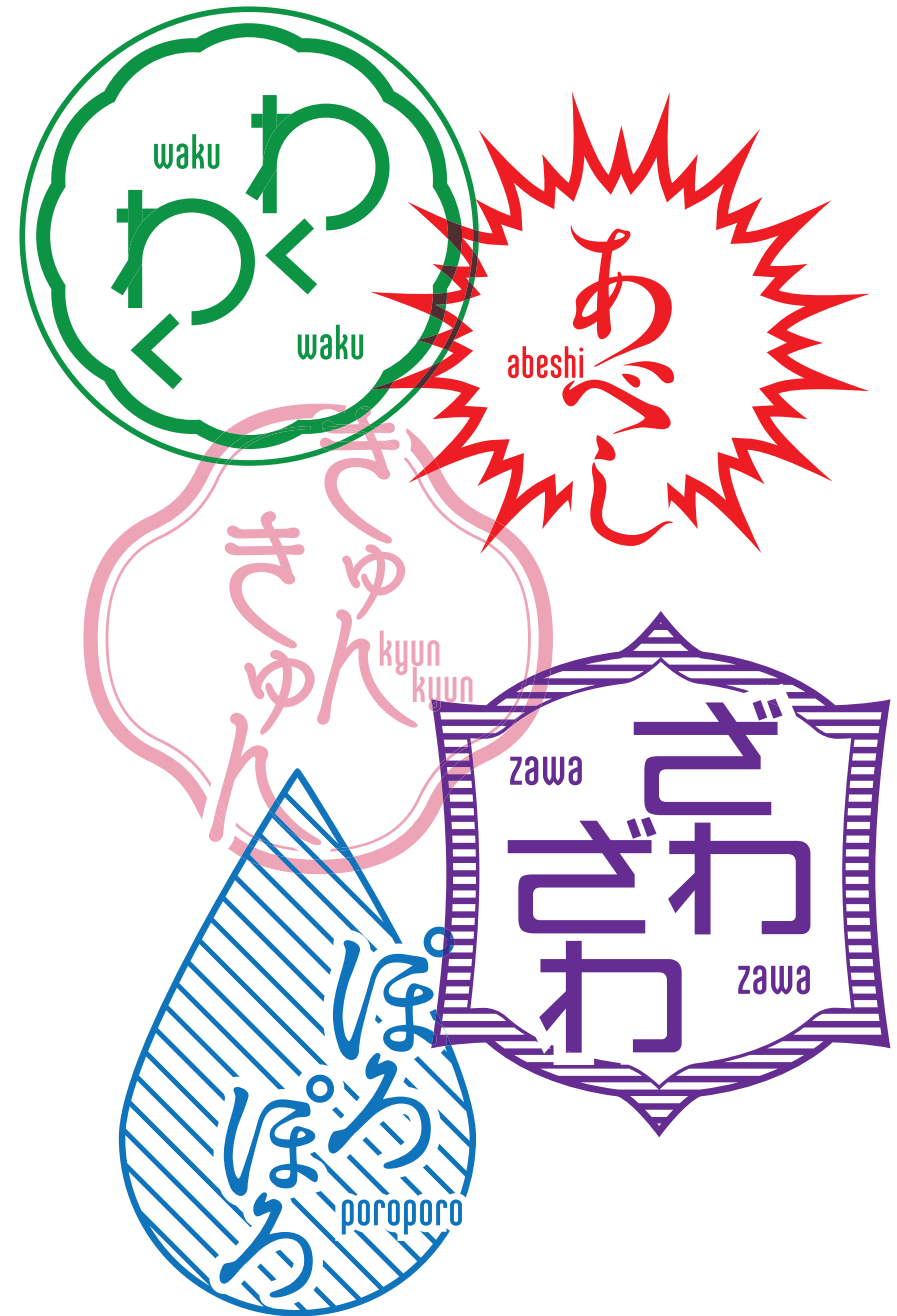
検索画面(OPAC)でもデジタルスタンプが  
発行できるようになり、簡単に参加することが可能です。

OPACのレビュー投稿は  
共読ライブラリーが大事にしている  
「本の薦め合い」を象徴する活動です。  
レビュー投稿件数は、累計700本を超えました。

オノマトペだから伝わる軽やかな読書リレー。

レビュー件数(累計)





# 5 読書術コース

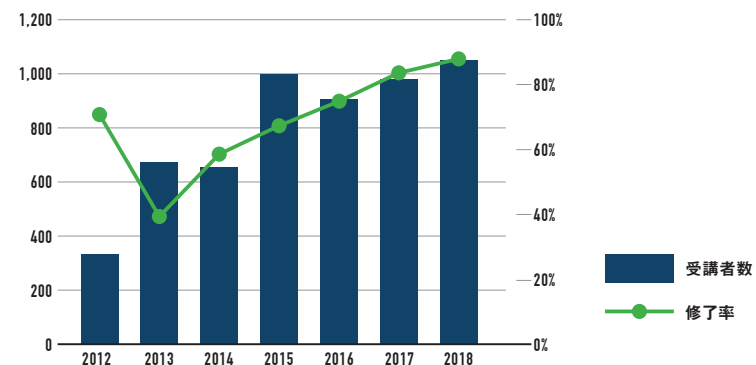
帝京大学発、読書の力を鍛える学修支援プログラム。

学生の学習基礎力向上と  
情報編集力の獲得のため、  
学部教育の現場と連携して実施する  
読書プログラムです。

2012年度から、読書を通じた新しい学修支援ツールとして、  
大学教育のスタートアッププログラムに導入。  
2017年度からは、専用アプリ「メクリ」を使い、  
スマホでの受講がしやすくなりました。

教育学部、文学部史学科、医療技術学部スポーツ医療学科、  
短期大学の1年生、約1,000人が毎年受講。  
リコメンド大賞に選ばれた本は、  
MELIC1階でお披露目されます。

受講者数と修了率の推移



## 読書術コースのプロセス



一冊の本を手にとりスタート



教員と図書館職員と編集工学研究所が厳選した課題本から一人一冊選びます。

### STAGE 1 読前

#### MISSION 1

どんな本が好き？  
自分の興味関心から、  
気になる1冊を選ぶ

#### MISSION 2

外から想像しよう  
本を開く前に、  
内容をイメージする

#### MISSION 3

もくじる！  
目次からその本の  
キーワードを見つける

### STAGE 2 読中

#### MISSION 4

連想を広げる  
キーワードから  
自由に連想をつなげる

#### MISSION 5

ふせんマーキング  
文中のキーワードに  
次々ふせんを貼る

#### MISSION 6

本文を読む  
連想やキーワードを  
トリガーにして読む

#### MISSION 7

つなげて伝えて…  
文章の順番を入れ替え  
新たな文脈をつくる

### STAGE 3 読後

#### MISSION 8

いよいよリコメ  
紹介文とキャッチ  
コピーを書く

### SHOW UP

修了

情報編集プロセス

収集・分析

関係づけ

構造化

表現

読書術コースは、読書のプロセスを

「読前・読中・読後」から成る3つのステージに分け、  
8つのミッションで組み立てる3週間プログラムです。

学生は図書館から気になる1冊(新書)を選び、  
オンライン上で回答すると「共読ナビゲーター」から指南が届きます。  
指南に沿って読む力と書く力を同時に磨いていきます。

### [2018年度 プログラム改訂内容]

MISSION7を改訂し「しゅ・は・り・よ・し」の型を取り入れました。

#### MISSION7-1

#### キーワードの仲間をさがせ

キーワードの関連ワードを集めて、  
本のエッセンスとなる情報を取り出していく。

#### MISSION7-2

#### 要約して意見を伝える

本の内容を要約する「しゅ・は・り・よ・し」の型を  
使って、自分の意見を伝える。

「しゅ・は・り・よ・し」の型とは？

「しゅ」 主題:本のテーマは何？

「は」 背景:本が書かれた時代や状況は？

「り」 理由:著者が書いた動機は？

「よ」 読み:どこに共感し、どんな発見をした？

「し」 紹介:どんな人にオススメする?なぜ?



# 読書術コース 体験談

1年生を対象に7年間で5,300人以上が受講しました。

## ナビゲーターの声

### 強烈なメッセージを輝かせたい

渡辺高志(会社員・人事担当)

共読ナビゲーターの楽しさは、学生が「変わる」瞬間に立ち会えることでした。本のなかの情報が自分の経験や価値観と重なったときに、ぐっと本の深みに入り込む瞬間を何度も目撃しました。ナビゲーターや仲間と共振しながら、学生から生まれ出る言葉が、強烈なメッセージをもって輝くように心がけて指南をしています。

### 読書から仕事まで万能なメソッド！

品川未貴(コーヒーショップ経営/翻訳業)

目次から選んだ言葉を手ずりに、付箋を貼りながら本を読み解き、著者の思いを他者に伝える。シンプルですが、万能な教育プログラムです。例えば、著者を「会社」に、他者を「顧客」に置き換えればビジネスでも応用可能。相手に応じて伝え方や使う言葉が異なってくることを、学生たちは仲間の回答をよく見て即座に学びます。

### 「読み」を学ぶ

井出武志(書店支店長)

大学教職員様への外商活動を通じて「図書館の利用が少ない」「本を読もうとしない」という悩みをよくお聞きします。学生の多くも最初は「本が苦手」。でも五感で体験することで、読書に対するワクワク感が自然と生まれることを実感しました。あらゆる情報を読む方法としても教育の現場に活かせる贅沢なプログラムです。

### 共読の楽しさを交わす一期一会

田中さつき(地域コミュニケーター)

本嫌いでも一寸先に光が見える、共読のなせる技を感じています。多くの人と交わって読む方が、本は断然おもしろい。お題にそってアウトプットされた回答を読みながら、私も本の世界に導かれていきます。箱根駅伝のテレビ放送で、担当した学生さんの姿を見たときは、滂刺とした回答ぶりを思い出しながら、声援を送りました。

## 受講者の声

自分がキーワードから連想したことが本の中に書かれていた時はなんともいえない嬉しさがあり、読んでいくことが楽しかった。

——— 短大 現代ビジネス学科1年

まさか読んだ本をここまで語れるとは思いませんでした。

——— 初等教育学科1年

本を読むのが苦手だったけれど、キーワードをあらかじめ見つけておくことで、こんなにすらすら読めるようになるとは思わなかった。

——— スポーツ医療学科1年

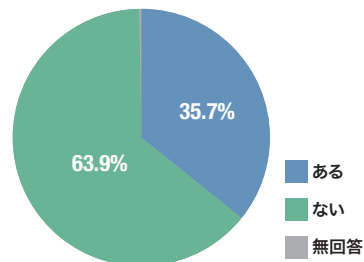
ただ読むだけではあっさりとした内容しか入ってこないが、疑問を持ちながら深く読むことでたくさんの発見が出来ることを知った。

——— 初等教育学科1年

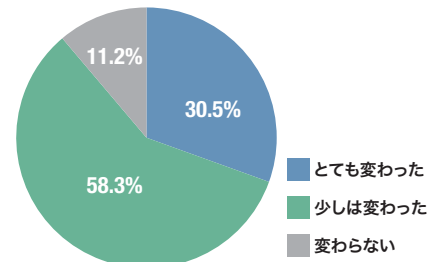
本の紹介文を200文字で表すことなど、今回の読書術コースは何もかもが新鮮だった。今後は、本を読んだ後に感想を書き留めたい。

——— 初等教育学科1年

「新書」を読んだことはありますか？



受講後、「読書」に対するイメージは変わりましたか？



# リコメンド大賞

読んで、書いて、評価して、さらにシェアする仕組み。

オンラインで配信される8つのMISSIONに回答することで、情報編集力をめきめき鍛える読書術コースでは、一冊の紹介文とキャッチコピーが「帯」になります。

先生とMELICの評価で、読みたくなるような魅力的な「帯文」が選ばれ、それぞれ「学科長賞」「館長賞」「担任賞」「MONDO賞」の各部門で表彰し、チャンピオンベルトのような立派な帯をつけて、MELICで貸し出します。

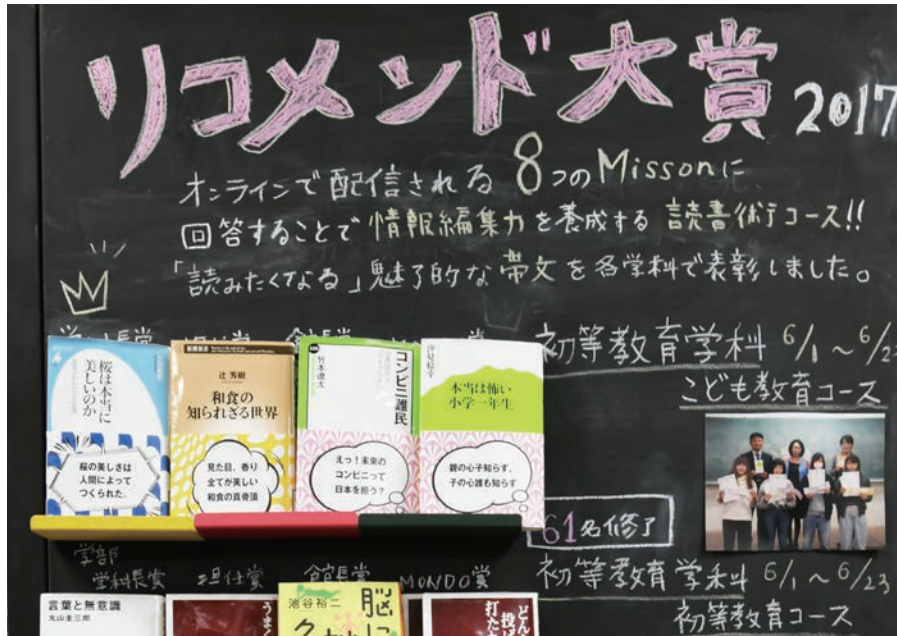
## 読書術コースの導入意義

和田孝(帝京大学 教育学部 学部長)

教育学部では卒業研究が必修科目として位置付けられており、1年次のライフデザイン演習において研究課題の発見・設定に取り組む。このことは、学生にとっては、これまでの「学習」から主体的で能動的な「学修」への転換を図ることを求められることを意味する。また、その主体的な学修の場としての図書館を学習センター、情報センターとしてその機能を積極的に活用することや読書を情報活用のプロセスとして自己の研究課題の追究に生かすことが求められる。

この過程の中で1年次の「読書術コースウエア」への参加は、刺激的であり、基本的読書スキルを学び、受動的読書から能動的読書への転換を図る活動のきっかけとなっている。この導入段階の読書法の体験を今後のアカデミックリーディングに繋げ、豊かで充実した学修・学究活動となるようにすることが教員・学生には期待されている。





**MOZOO賞**  
 読書賞

共読インテリ

書名: 知の編集術  
 著者: 松岡正剛

編集してる?  
 「会話」も実は  
 編集なんです。

ハウツー本の常套句「誰にでもできる」ということは、そのことを信じて良い本がここにある。本書「知の編集術」は、私たちが日々交わっている「会話」の中には実は「編集」が含まれていること、子供の遊びにも編集が潜み隠れていることを述べたうえで、読者を指南しながら編集技法のパレードへと導いてくれる。「編集はめっぽうおもしろい」さあ、知の愉快・方法の冒険へと出かけよう。

サーガ大観教室 増村 洋平  
 史学科 2組

**MOZOO賞**  
 学科長賞

共読インテリ

書名: 人はいかに学ぶか  
 著者: 稲垣佳世子・波多野 直余夫

できるを  
 超える!

ヒトはどんな時でも学び続けている。伝統的な学習観から学ぶ、現実的必要から学ぶ、知的好奇心により学ぶ。ヒトはどんな時にどんな条件のもとで効果的に学ぶのであろうか。勉強ができるようにない、もっと知識を得たい、そもそも知識を獲得するというのはどんなことなのか、学ぶを知ることのできる本にその答えがある。きっと今の自分を変えることができる。その先には「できる」を超えた自分との出会いがあるはずです。

さるとび金魚教室 浅原 涼  
 初等教育学科初等教育コース 3組

**MOZOO賞**  
 MOZOO賞

共読インテリ

書名: 竹と樹のマンガ文化論  
 著者: 竹宮恵子・内田樹

この一冊が  
 趣味から学問へ  
 マンガを変える

皆さん、マンガをただ消費していませんか? そんなの、もったいないです。マンガは、作家さんたちの試行錯誤の産物なんです! しかし、今現代では娯楽にしか見られていないのです。今の日本人にはマンガから学ぶことが沢山あります。ステレオタイプに凝り固まった思考・言動をほくしていきましょう。この一冊から、マンガを娯楽から学問の世界に入れてみませんか?

手鏡バラード教室 野田 一馬  
 教育文化学科 4組

**MOZOO賞**  
 MOZOO賞

共読インテリ

書名: グローバリゼーションの中の江戸  
 著者: 田中 俊子

江戸時代にも  
 あったの?  
 水玉とフリル

洋服が日本に広まったのは50~60年程前の、つい最近の話である。では、いままらずっと前の江戸時代では着物が着なかったのだろうか? 実は、江戸時代には西洋の文化であるフリルや水玉が使われた陣羽織があったのだ。江戸時代の日本人は、ポルトガル人の洋服にかっこいいと憧れを持ちたりと、洋服に興味津々だった! あなたの知らない洋服の文化がわかります!

ジャスミン粒子教室 森川 真桜  
 短期大学 現代ビジネス学科 1組

# 6 共読 サポーターズ

共読ライブラリーを支えているのは、  
学部・学科・学年を超えてあつまった  
有志の学生たちです。

「ビブリオバトル」と「棚づくり」と「OPACレビュー」で  
共読サポーターとしてのスキルを磨き、  
青舎祭、図書館総合展、他大学との交流会、  
地域との連携イベントや、各種メディアへの  
書評執筆などでその力を発揮します。

共読ライブラリーの中心を担うキープレイヤーです。

## 各学年の役割

学年ごとに役割をステップアップさせながら

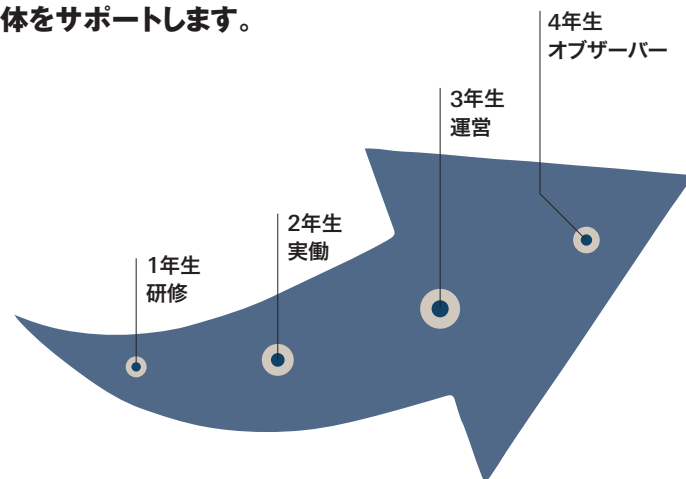
「共読」を実践しています。

1年生は数々の研修を体験しながら共読とは何かを学び、

2年生は月例活動と青舎祭ほか各種プロジェクトの中核となり、

3年生は運営委員会を組織して共読サポーター全体をリードし、  
新メンバーへの教育や研修を担当します。

4年生になると、これまでの経験をもとに  
活動全体をサポートします。



## 共読サポーターズの人気

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
人数(人)	18	37	44	63	59	58	70	66

〈写真〉p.102: (上)サポーターが開催する「月例会」風景(下右)青舎祭(学園祭)では1人1箱の店主になって、セレクトした本にコメントカードを付けて売る「一箱古本市」を開催(下左)MELIC1階「MONDO ルーム」の前でプリオバトルを実施。



# 研修プログラム

先輩から後輩へ教え合いのサイクルが生まれます。

## 6つの研修

6月上旬に新規サポーターが入ってきたら、その後3ヶ月をかけて6種類の研修を実施します。

9月からは実践に入り、

共読プロジェクトの活動全般に関わります。

研修1 目次読書法	6月中旬	目次から必要な情報を読み取り、自分の言葉でアウトプットする方法を先輩サポーターに学ぶ
研修2 ビブリオバトル研修	6月下旬	上級生と一緒にビブリオバトルを体験し、実際の流れを学ぶ
研修3 黒板リコメンド作成法	7月中旬	目次読書法を使い、1冊の本を効果的にリコメンドする技法を学ぶ
研修4 OPACレビューの書き方	7月下旬	説得力のあるレビューを書くために必要な要素と型を学ぶ
研修5 読書術コースの受講	8月中旬	新書を使い、発想・要約・伝達する情報編集のスキルをオンラインで習得する
研修6 棚づくりワークショップ	9月上旬	3冊のキーブックから世界を広げ、ストーリーのある本棚を作る

## 3人の共読サポーターが

2017年の図書館総合展フォーラムで語ったこと。

**柳沼要俊** 社会学科3年

**石山奈緒子** 日本文化学科3年

**和賀みなみ** 法律学科3年

※学年は2017年時点

## サポーターになったきっかけは？

- 石山 もともと本が好きで、人と「共読」するコンセプトに惹かれました。
- 柳沼 司書を目指している時、図書館が拠点の活動があると聞いて応募しました。
- 和賀 ビブリオバトルを見て、読む側から伝える側になりたいと思いました。

## 目次読書法の体験とは？

- 柳沼 はじめは、目次は飛ばして、本文から読む方がはやく、と思っていたけれど、「棚づくり」の選書や授業でつかう文献を探しているときに「目次読書法は使える!」と実感しました。後輩に教える立ち場になってから、さらに理解が深まりました。
- 和賀 時間の短縮になります。おかげで多くの本と触れ合えるのが嬉しい。目次から要点をつかみ、興味のある本文へ飛ぶことで、1冊まるまる読まなくても側板(MONDOストリート)で本の要点を紹介できるようになりました。



## 後輩に教えることで学んだことは？

- 石山 教えることの難しさを実感しました。自分が理解していないときは聞いている側もわからないと気づき、初心に戻ってこれまでの活動を振り返り、自身にきちんと落とし込む作業をしました。
- 和賀 インプットした情報がどんなによいものでも、アウトプットすることは簡単ではない事を学びました。伝わらなければ意味がないので、受け手にわかりやすく伝える努力は欠かせません。

## 棚づくりの魅力とは？

- 石山 ひとりひとりの個性が、選ぶ本にあらわれます。棚づくりの選書内容から、その人の考えを読み解くのは面白いです。図書館総合展で、自分がつくった書棚を案内したとき、来場者がとても熱心に聞いてくれて、伝えたいことが伝わる喜びを感じました。
- 柳沼 ぼくも個々の性格が出ると思います。つくった棚を見て、いろいろな感想をもらえるのは嬉しいこと。他大学との交流会では、MELICを見学したいと言われ、青舎祭ではサポーターの活動をうらやましがられる。共読ライブラリーの活動の影響を感じます。

## 棚づくりで成長したことは？

- 和賀 情報の型を使って発想をひろげる編集的思考素を本当に理解したとき、棚づくりが劇的に変わりました。研修で学んだ型をつかってストーリーを考え、相手に伝えるように本の並びを意識するようになりました。
- 石山 連想が苦手で、棚づくりの停滞期がありました。どうすれば成長できるか悩んだすえに、OPACだけでなく書棚をブラウジングして選書するように変えたら、次第に「ひらめく力」がついて、テーマから選書する作業が面白くなりました。いまでは、自分の棚づくりに自信が持てるほど、成長できたと思います。

# 棚づくりと書評

## 書評執筆

本を薦め合う活動の成果として、  
共読サポーターの書評が週刊読書人に掲載されました。



共読は、アタマに汗をかく知的運動部です。

## 黒木重昭(くろき・しげあき) 「週刊読書人」代表

「週刊読書人」は書評専門紙であるが、単に新刊を紹介するだけが目的ではなく、その本がたくさん読まれるようにしていくことを目標に掲げている。最近、大学生の読書量が少なくなったと言われていたので、大学生が自ら選んで本を読みその評を書くというアクティブな企画を立てた。しかしどこに、読み、書くことのできる優れた大学生が居るか探すのは難しいという壁にも突き当たった。そこで、熱心に読書活動を実践している大学はどこか?という人々にヒアリングしてみると、例外なく帝京大学という名前が出てくる。勇気を奮って大学図書館を訪ねてみるとイメージどおりの活動が展開されており、私たちの企画にも諸手を挙げて賛成、協力していただけることとなった。これで、第1回の執筆候補は決まった！これを力に、主に首都圏、近畿圏の大学を訪ね、次々と執筆の学生が決まって行ったのである。スタートから1年を迎える頃には続々と応募が来るようになり、いまでは大学生はきちんと本を読んでいる、ということを確認できるようになった。

# 棚づくり

2017年に実施した「棚づくり」から  
共読サポーターの選書をご紹介します。



## 「夜」を楽しむ。 泉山雅貴 社会学科1年

夜をテーマに本を探したときに、意外と温かい雰囲気のものが多くて驚きました。夜→寝る→夢→幻想というように発想を広げられたので、少しは成長できたかなと思いました。

- 『よなかの散歩』角田光代(オレンジページ)
- 『でんきを消して、スローな夜を。』マエキタミヤコ(マキノ出版)
- 『大きな熊が来る前に、おやすみ。』島本理生(新潮社)

## 恋せよ、就活生! 志賀えりか 法律学科4年

就活をしていて気が付いたことがあります。それは時間が全くないということ。いつもオシャレに気を抜かない私が、彼氏とのデート最優先だった私が、就活という渦に狂わされているのです。

- 『オトナ女子のためのモテしぐさ図鑑』中井信之(ワニブックス)
- 『最新版 就活難民にならないための大学生活30のルール』常見陽平(主婦の友社)
- 『ビタミンCは人類を救う!!』川口友万(学研パブリッシング)

※学年は2017年時点

## 夕焼けと秘密基地 平山果林 法律学科1年

夕焼けの中を走って帰る小学生の姿から、1日の終わりの切なさを感じ、そこから空の色をイメージに選書しました。どれも表紙が綺麗で、5時半の鐘が聴こえそうな題名の本たちです。

- 『帰り道が消えた』青山真治(講談社)
- 『風の向こうへ駆け抜けろ』古内一絵(小学館)
- 『美しき一日の終わり』有吉玉青(講談社)

## 温かい「せかい」 田下幹大 日本文化学科4年

私たちが普段感じている「温かみ」とはいったい何なのかを考えながら本を選びました。からだに触れて感じる熱、こころが振れて感じる熱。寒くて凍える季節に、両方の「熱」を届けます。

- 『お茶が運ばれてくるまでに』時雨沢恵一(アスキー・メディアワークス)
- 『桜風堂ものがたり』村山早紀(PHP研究所)
- 『恋する女のお料理教室』ゴマブツ子(朝日新聞出版)

## スポーツの原動力 和賀みなみ 法律学科3年

何のためにスポーツをする?わたしの答えは、仲間とご飯と勝利のため。もともと、スポーツをはじめするには、膨大な感情のエネルギーが要ると、私は思う。たとえば、火山の噴火のように。

- 『部活学園編』北上次郎(新潮社)
- 『部活弁当』山口美佐(地球丸)
- 『勝つ人』武井壮(文藝春秋)

## それは私になり得るか 岡本空 初等教育学科3年

学校、バイト、サークル、遊び。毎日こんなに忙しいのに、どうして体は2つ無い?人工知能やロボット工学で、そろそろ人間のスペアも作れそうと期待しつつ、恐怖も覚えます。

- 『やさしいアンドロイドの作り方』福江純(大和書房)
- 『どうすれば「人」を創れるか』石黒浩(新潮社)
- 『Allは「心」を持てるのか』ジョージ・ザルカダキス(日経BP社)

# キャンパスを超えて

社会のリアルな現場には、自信につながる出会いと発見があります。

どこでも図書館プロジェクトの一環として、  
キャンパス外のイベントにも積極的に参加しています。

## 出張イベント

2017年9月、花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」に共読サポーターが本棚付き三輪自転車「ブックル」とともに出動。「走るグリーンライブラリー」と題し、花と緑をテーマに選んだ本を介して老若男女を問わず多くの来場者と交流を深めました。

2018年8月、学び体験フェア「マナビゲート2018」に参加しました。友だちや家族に本のたのしさを伝えるコメントカードづくりワークショップやビブリオバトル、共読オリジナル缶バッジ製作など、子どもから大人まで多彩な来場者と本で触れ合いました。

2018年9月、広島大学で開催された「第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム」に共読サポーターが参加しました。「協働」が生み出す力を知って、共読の活動につながる魅力を再発見しました。

## ビブリオバトル

5分間で本を紹介し、読みたくなった本(=チャンプ本)を投票で決定するスポーツのような知的書評合戦。月1回学内で実施するほか、企業と協力してビブリオバトルを開催したり、全国大学ビブリオバトルにも出場しています。

〈写真〉p.113: (上)全国都市緑化フェア(2017.9) (下)広島で開催された「第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム」に参加した4名の共読サポーター

〈写真〉p.114: 学外開催のビブリオバトル(左上から時計回り)図書館総合展会場にて(2017) / 全国都市緑化はちおうじフェア(2017) / ベネッセで開催(2017) / マナビゲート2018会場から2点(2018)





# わたしを変えた一冊

ともに読む仲間と交わすノーブック・ノーライフ。

## 宮崎駿『本へのびら』

いちど出会って好きになった本を  
ずっと大切にすればいいんだと教えてもらいました。

石山奈緒子  
日本文化学科4年



石井ゆかり『星をさがす』

星が航海の道しるべだったように、  
これから歩む先を照らしてくれる本です。



金田あかり  
日本文化学科3年

Dream『dreamはDreamの夢を見る。』

夢は、見続けなければ叶わないことを学びました。  
進路に悩んでいたときに出会った二冊です。

藤村美憧  
日本文化学科3年

野村克也『弱者の兵法』

読書って、スポーツと同じくらい  
カッコイイと気づいた二冊です。



江本祥太  
経済学科2年

# わたしを変えた一冊

江國香織『すいかの匂い』  
平仮名のことばの柔らかさに、衝撃を受けました。



角埜弘敏  
経済学科4年



黒田亜由美  
観光経営学科3年

### 白取春彦『超訳ニイチエの言葉』

大学1年生の時に友人から贈られた本です。  
「自分を知ることから始めよう」……など、  
人生に迷ったときに、そっと開きたいです。

### 伊藤計劃『ハーモニー』

登場人物の達観した考え方におどろき、  
作者の背景を知ってさらに仰天しました。  
多くの読書人生でもっとも衝撃的だった2冊です。

富樫知之  
法律学科3年



# サポーターズ卒業生

2012年に18人でスタートした  
共読サポーターズ。  
現在では常時60人の学生でにぎわう  
コミュニティに成長しました。

ここから巣立ち、社会のどこかで共読を実践している先輩たち。

## 大谷幸裕 (おおたに・ゆきひろ)

文学部 日本文化学科・2013年度卒

現在——中学校教員



ビブリオバトル。私は共読サポーターになりその言葉を初めて知りました。実際に参加するのはもちろん、司会進行などの企画・運営にも携わることができました。その経験が現在の仕事にも活かしています。授業で生徒にビブリオバトルをさせると、恥ずかしがりながらも楽しんでいるようです。あらためて“本を通して人とつながることの大切さ”を感じました。他にも、図書館総合展への参加や読書術コースの受講など、自分のコミュニケーション力や学習基礎力の向上にとても役立ちました。それ以上に、共読サポーターズとして、大学を図書館から盛り上げることを目標に頑張った仲間との出会いは一生の宝物です。何かをやり遂げようとすると、一人の力ではとても難しいです。ですが、同じ志をもった人が集まれば不可能はありません。これからも帝京大学で出会った“共読”という言葉を中心に留めて、学校図書館を盛り上げていきたいです。

## 堀田里暁 (ほった・りさと)

経済学部 経営学科・2015年度卒

現在——専業主婦



在学当時、共読活動を通じて「読書は個人だけのものではない」ということを学びました。元々、読書が好きだった理由は、様々な人の人生を疑似体験したり、様々な人の視点に立ってみたりできたことでしたが、共読活動を通じて他の人とシェアし合うことで、さらに視野を広げることができました。また、プロジェクトのひとつである「読書術コース」では、本を隅から隅まで読むだけではなく関わり方を学び、読書の効率と質が格段に上がりました。そこで得たスキルは、卒業後に進んだ大学院においては本や資料を元にしたディスカッションの際に、現在出産と育児を控える立場においては主人との情報共有の際に役立っています。読書に限らず、様々な情報を素早く正確にインプットし、それを多様な方法でアウトプットする術を身につけることの重要性は、外に出れば出るほど身に染みます。在学時に共読活動に携わることができ、本当に良かったと思っています。

## 山田淳史 (やまだ・あつし)

文学部 日本文化学科・2015年度卒

現在——移住コーディネーター

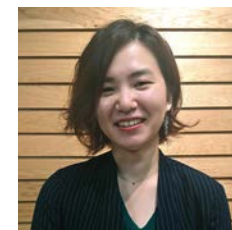


共読ライブラリーで磨いたのは「打てば響く表現力」。数ある共読活動のなかでも、この能力が要求されたのが「帯1グランプリ」。通称オビワンと略されるこの企画は、新書を1冊選び、リコメンタ文(200字)とキャッチコピー(21字)でレビューし、その出来栄を学生同士で競い合うというユニークな試みだ。入選を目指して、キレのある言葉選びに四苦八苦した。いま、この経験が社会人になって活かしている。とくにそう感じるのは、お客様との会話。私のお客様のほとんどは、都会から田舎への移住を悩んでいる人たち。田舎で叶えられるライフスタイルを提案したときに、打てば響くようなナイスリアクションが返ってくるのは、共読で鍛えられたからだ。1冊の書物を評価する。それを日々繰り返すことによって表現力は磨かれる。さらに読書で知見も広がる。そのうえ様々な著者のライティング技術も吸収できる。まさに共読は一石三鳥の取り組みだ。

## 中道揺季乃 (なかみち・ゆきの)

文学部 日本文化学科・2017年度卒

現在——会社員



私にとって共読とは「挑戦する機会を与えてくれる場所」であり、「自分の好きなものを再認識することができた場所」でした。いろいろな企画を通して学んだ相手に自分の考えを伝える、相手目線で考えてみる、ということは今の仕事にも活かせていると思います。どうしてそれをお勧めするのか、相手に似合っているか。そういったことをお客様に伝える方法は、ビブリオバトルやコメントカード等で鍛えることができたと感じます。年上の方や他大学の方と交流することで、コミュニケーションの取り方や名刺の受け渡しなども、身に付けることができました。また、読書は元々好きでしたが、改めて「好きなことなんだ」と再認識しました。人と共有する、薦め合うということを得られる読書の楽しさや可能性を知ることができました。好きなもの、感じたことを言葉で伝える力は、さまざまな共読の活動を通して身に付けたことです。

# 図書館総合展

3日で3万人超の来場者が駆けつける図書館界の祭典。

毎年秋に開催される図書館総合展には、  
2012年から参加を続けています。

## 過去のフォーラムテーマ

### 図書館総合展2012

「共読ライブラリー」が創る  
「人」「本」「学び」の未来  
～図書館を変えるブランド戦略

登壇：松岡正剛、小林昌二、MELIC職員

### 図書館総合展2013

「共読ライブラリー」2年目の挑戦!!  
「学びの力」を獲得する  
「共読」学習支援プログラムの開発  
～読書と学習支援のあたらしいカタチ

登壇：小林昌二、MELIC職員、共読サポーター、  
読書術ナビゲーター

### 図書館総合展2014

「共読ライブラリー」3年目の飛躍!!  
「学び」と「遊び」を活性化する  
共読空間のデザイン  
～「読む」から始める  
アクティブ・ラーニングの進化形

登壇：MELIC職員、  
東亨(空間デザイナー)、  
美柑和俊(グラフィックデザイナー)、  
榎田理(編集工学研究所)

### 図書館総合展2018

「共読ライブラリー」未来の図書館研究所  
読書で学びをデザインする  
—遊びを学びに変える  
ロール・ルール・ツール

登壇：MELIC職員、共読サポーターズ、  
駒形克己(造本作家・デザイナー)、  
東亨(HIGASHI-GUMI代表)

### 図書館総合展2015

「共読ライブラリー」から考える  
学びと読書の「今」と「これから」  
～学生サポーターとつくる  
地域連携型共読コミュニティ

登壇：中嶋康 バネリスト：早川信夫(NHK解説  
委員)、飯澤文夫(元明治大学学術社会連携部  
長)、松田ユリ子(神奈川県立田奈高等学校 学  
校司書/NPO法人パノラマ理事)  
コーディネーター：上田直人(東久留米市立中央図  
書館 図書館専門員)

### 図書館総合展2016

「共読ライブラリー」第2ステージ始動  
図書館は学生と社会をつなぐ  
KEY STATION !!

～オカモチが走る!  
「キャンパスどこでも図書館」計画、  
学修支援の切り札「読書術アプリ」、  
社会とコラボ「未来の図書館」見本市etc.  
企画アイテム一挙公開!

登壇：沖永佳史(帝京大学理事・学長)、  
中嶋康

### 図書館総合展2017

形だけの学生協働を超える  
ポイントはこれだ!  
仲良しクラブで終わらせない!

共読アスリート育成術  
～学生サポーターズと創る  
「共読ライブラリー」2ndステージ

登壇：MELIC職員、共読サポーターズ





### 来場者の声〈フォーラム〉

- ◎モノのデザインだけでなく、そこに働く図書館職員までもデザインするという考えは 大変参考になった。(2014フォーラム)
- ◎学長のリーダーシップ、図書館員の柔軟な姿勢、アイデアの新しさなど、参考になった。(2016フォーラム)
- ◎自分の子どもに帝京大学に行ってもらいたいと思うほどよかった。(2017フォーラム)



### 来場者の声〈ブース〉

- ◎本棚が人と本、人と人をつなげる役割をしているのがよい。(2013ブース)
- ◎会場内で一番目を引きました。ユニークで見ていると楽しい。(2014ブース)
- ◎本嫌いも巻き込むセンスと本好きを離さない雰囲気がある。(2015ブース)
- ◎良い意味で図書館らしくないデザインがとても魅力的でした。(2016ブース)
- ◎学生が主体的に動く仕組みが築かれていて素晴らしい一言。(2017ブース)

# 共読ライブラリーの可能性

図書館界、大学界、実業界が注目する共読ライブラリー。

図書館、大学、企業、それぞれの  
最前線から照らし出す  
共読ライブラリーのこれまでとこれから。

## 共読は、図書館をまるごと変える!

吉成信夫  
岐阜市立図書館 館長

MELICの取り組みを知ったのは2015年秋の図書館総合展でのこと。本の貸し借りだけでなく、本をまんなかにひととひととが出会ったり、向き合ったり対論したり、生き生きと言葉が飛び交う場所をどう創るか。私はこれからの図書館のあり方に思いを巡らせていた。その時、ここに仲間がいたと思った。

「読もうから、読みたくなるへ」。このフレーズの中に、本に縁のなかった学生たちを振り向かせようとする意思を私は強く感じる。スタンダードな良書主義的なものが壊れてしまった現在でも、上からこれを読みなさいというような読書推進が根強くある中で、様々なソフト的、空間的な仕掛けとツールをもって立ち向かおうとするMELICの取り組みに私は心から賛同する。学生たちの言葉をOPACリコメンドに入れたり、授業体系の中に広く図書館を活用したり、読書術をコースに入れたり、学生たちの日常的な仕組みの中へ埋め込んでいこうとしている点に、大学としての本気さを感じるのである。

さらなる段階に向けてACT3がどんな場所になっていくのか。自由闊達な空気感が生まれてほしいと願う。これは私の思いつきにすぎないが、本をきっかけに、自分の言葉を学生たちが探し出し、自分の言葉を獲得していくための回路、独自のメディアがあったらいいのではないかと。私は今、子どもたちと番組を作り、FMラジオで定期放送をしているのだが、社会に向けて自分たちの実感をベースに、本や資料にあたり、番組に編集したら面白いのではないかと。学生自身が、これからは「自分流」にしぶとく生

き抜いていくために必要な本、言葉は、学問体系の中だけにあるとは限らない。本と体験を通して、沈黙の間を含めた生きた言葉のやりとりの間を往復する中で、生きていくための何かを見つけてほしい。

岐阜市では、第2次子どもの読書推進計画の根幹に「共読」というキーワードを入れ込むことができた。これは先達である帝京大学の実践があったからこそと深く感謝している。



## 本と読書を「開く」試みの トップランナー

**鈴木毅**

近畿大学 建築学部 教授

「先生。学生に本の帯を作らせている大学があります」。卒論生のTさんの報告が、共読ライブラリーとの出会いだった。「まちライブラリー」や「一箱古本市」など、本を使った新しい場づくりを研究する中、近畿大学に松岡正剛氏らによるビブリオシアターができ、大学図書館の動向を調べ始めた矢先のことだった。

帯づくりは帝京大学メディアライブラリーセンターによる読書術コースの一環だった。MELICのウェブサイトにはそれ以外にも興味深い活動が掲載されており、早速見学を申し込んでご案内いただいた。

MONDO書架に圧倒され、新書の帯が市販本のように印刷されていることに感心した。2ndステージに向けたオカモチ等の仕掛けにも目を見張ったが、特に印象深かったのは開架書架の側板リコメンドである。黒板にサポーターの学生によるお勧め本が置かれ推薦メッセージが描かれている。それが並ぶと同世代の学生がこの開架書架の本全てに目を通してることが視覚化され、ただの書架群とは違う風景に見えるのである。

図書館総合展では共読サポーター達にインタビューすることができた。代表のY君の奥行きを使う棚配置にはうならされた。単にお気に入りの本

を並べたのではなく、場所と気分のマトリックスで選書している点が重要である。読書術コースもそうだが、本の世界を広げる仕組みがシステム化されているのだ。

棚を作った学生達も、ワークショップを仕切る学生も、ビブリオバトル予選チャンプとなったNさんも、皆自分の言葉で生き生きと話すことにも感銘を受けた。学生達が本を手がかりに言葉を獲得していることを感じる。

個人的行為とみなされてきた読書だが、本をめぐる状況に危機感を持つ人々によって、また本が持つ力を再発見した人々によって、本と読書を「開く」試みが同時多発的に始まっているように思う。帝京大学の共読ライブラリーはその最先端を走っている。



## 共読という祝祭

**田母神顯二郎**

明治大学 文学部 教授

松岡正剛氏は『多読術』のなかでこう書いている。「僕の読書術があるとする、その根底には、何かぎりぎりのところで他者にさらわれてもいいと思っているという感情があるわけです」。この一節を読むたびに、私はいつも心を打たれてきた。振り返ってみれば、私もまた「本に攫われていく人生」を選んだものの一人だからだ。そのころは、宮澤賢治やカフカやミショーに入れあげていて、その作品世界を彷徨することが、いまでいう「レジリエンス（復元力）」を養うための貴重な時間でもあったのである。

当時はまた、似た思いをいただく友や同類が、必ずどこかにいたものだし、そうした連中がたむろする喫茶店や映画館もまだ街の片隅に残っていた。お互いひとことも口をきかなくとも、「本」によって結ばれているのを感じていたし、本を読むということは、自分のなかのたくさんの「声」を聴くことでもあった。だからちっとも孤独ではなかったが、現代ではそんなアジュール（避

難所)を探すとさえひと苦勞だろう。

いま帝京大学で行われている「共読ライブラリー」プロジェクトには、松岡氏が『多読術』で示してくれた数々の読書奥義が具現されている。共読サポーターや教職員、読書術コースのナビゲーターの人たちが図書館と共に理想的な本のコミュニティを用意し、「読前・読中・読後」をワクワクするような仕掛けでつないでくれる。そこでは、「読むこと」と「書くこと」は一体であるという教えをもとに、読書力とライティング力がともに伸びていくシステムが作られ、本や作家との多重多彩な出会いがたえず待ちうけている。これを一度経験した人は、生涯、「移動祝祭日」を胸にもちつづけることになるだろう。

そんなわけで、私は帝京大学で学ぶみなさんのことが羨ましくてしかたない。これからも共読を通し、「未知のパンドラの箱」を開ける喜びをたくさん味わってほしいと思う。



## 「学びの型」を身につける

奥本英宏

リクルートワークス研究所 副所長

企業の平均寿命が30年から20年へと短くなる一方で、人生100年時代を迎えた企業人の働く期間は40年を超えて伸び続けている。企業寿命を超えて活躍する企業人にとって、継続して学ぶ力が何よりも重要となってきた。そうしたなか、読書を手掛かりに「学びの型を学ぶ」新たな取り組みとして、帝京大学の「共読ライブラリー」に注目している。

この取組みに先進性を感じる点が2つある。1つは、薦め合い、連ね合う「共読」を通じて、個人の関心や専門を超える「知のネットワーク化」を促す型を備えていることだ。現在、企業がサービス提供を通じて取り組む課題の多くは複雑化している。高齢者向けサービス開発ひとつをとっても、価値観などの心理分野から、運動や健康の医療分野、衣食住の生

活コミュニティなどの学際的な知見と思考が求められる。黒板本棚をつかった「棚づくり」では自分と世界の関係を俯瞰し、テーマの世界観や物語性を広げてコンセプトを発想していく。その型は複雑な環境を自分の視点で読み解き、知見として積み上げる素晴らしい武器となる。

もう1つは、「共読」が情報の収集のステップに留まらず、情報整理から発信までの一連の情報活用を支援していることだ。企業の学びはアウトプットを求める実践性に特徴がある。「共読」ではどのプログラムにもインタラクティブな対話と、コンセプトを分かりやすく伝えるメディア製作がセットされている。そのプロセスは極めて情報編集的であり、変化の時代の知的活動の実践的な型として通用するものだ。

社会人で主体的に学ぶ人と学ばない人の違いには、学生時代の学びの習慣がとても強く影響すると言われる。学生時代に習得した学びの型は一生にわたって自分のキャリアを切り拓くエンジンになっていく。この「共読ライブラリー」の取組みが、一人でも多くの学生を巻き込み、さらに発展していくことを期待している。

### 教育の現場で体感する

### 共読ライブラリーの

### 冒険と軌跡。

## 職員、学生、教員の輪をつなぐ

江夏由樹

帝京大学 経済学部 学部長／国際経済学科長

帝京大学八王子キャンパスの図書館(MELIC)の活動、例えば、図書館総合展への参加、ビブリオバトルの開催などについては、以前より、その話を聞く機会があった。帝京大学への着任直後(2016年)、私はす

ぐにMELICを訪問した。そこでまず目に入ってきたのが「MONDO書架」であり、そこから、「共読ライブラリー」の世界に引き寄せられていった。

大学図書館は学術情報基盤として、大学の教育・研究の根幹を支える役割を果たしている。しかしながら、教育活動は教員組織によって担われており、図書館がその現場に直接関わることはなかなかできない。そうしたなかで、「本に親しむ」という目標を掲げ、MELICが学生の「読む」「書く」「話す」「聞く」という能力の向上を目指して「共読ライブラリー」プロジェクトを進めていることは大いに評価できる。とりわけ、私が注目したい点は、「共読ライブラリー」の推進役として、図書館職員だけでなく、「共読サポーターズ」という学生組織が重要な役割を果たしていることである。近年は毎年50名以上の学生がここに参加している。学生の感性・発想は新鮮である。「共読ライブラリー」が学生の力にも支えられている点は注目に値する。

また、このプロジェクトが「読書術コース」を一部の学部・学科と協力して立ち上げ、授業の一環として、学生に本を読む機会を設けていることも見逃せない。このコースは学生の学習基礎力向上、情報編集力獲得を目指すものであるが、活字離れが進む現代社会において、学生に読書に親しむ機会を授業として設けていることは大切である。読書を通じてその知的世界を広げていく習慣を身につけるならば、それは学生たちの将来にとって貴重な財産となるであろう。このコースに積極的に対応できる学生の数はまだ決して多くはないかもしれないが、この試みがより拡大していくことを期待したい。

図書館職員、学生、教員の輪をつなげる形で進められている「共読ライブラリー」は、他の大学図書館の取り組みにも大きな参考となるであろう。



## 知識を得るための読書方法を学ぶ

鎌田和宏

帝京大学 教育学部 初等教育学科 教授

若者の読書離れは深刻である。2017年の調査によれば大学生の53%が1日の読書時間がゼロだという(全国大学生協連、第53回学生生活実態調査)。高校までの読書習慣が全体的に身につけていないことの影響が大きいとの分析だ。

大学での学びは知識を得るための読書が基盤となっている。本学が取り組んでいる共読プロジェクトは、学生達に刷り込まれてきた文学中心の読書イメージにゆさぶりをかけ、多様な読書方法とそれがもたらす効果を実感させ、読書習慣を身に付けさせるための重要な取り組みと言えよう。

読書術コースは学部と図書館が連携して行う知識を得るための読書方法入門の取り組みである。学生がこれまで余手に取ったことのない新書を読書材として、始めから終わりまで読むという読書方法以外の方法を経験させてくれる。授業の中で多様・多量なテキストを読むことへのイントロダクションとして有効に機能している。

また共読サポーターズの活動は学生による読書推進活動で、多くの学生により刺激を与えてくれている。同年代による読書の勧めが極めて有効であることは小中高等学校の現場の実践で明らかになっていることである。共読サポーターの黒板本棚による本の薦めは、学内の学生達の話題となるだけでなく、見学された鳥取県立鳥取西高等学校の高橋和加氏(学校司書)によって、高等学校図書館の整備・活用に参考にされ実践されている(鳥取県は学校図書館活用に取り組んでいる先進県)。

共読プロジェクトは、年々その活動を多岐に発展させ、全てについて評することは難しいが、高校までの教育の中で見落とされがちであった読書—しかし大学教育では基盤となる—に焦点をあて、そのイメージを見直し大学への学びにつなげていく重要な取り組みであるといえるだろう。紙の本による読書の意味とよさを見直し、電子の世界の読書ともつなげて、さらなる発展を遂げることに期待している。

# プロジェクト・ パートナーズ

1冊からプロジェクト全体まで総合編集する松岡正剛チーム。

スーパーバイザー

**松岡正剛** (まつおか・せいごう)

編集工学研究所所長・イシス編集学校校長

1944年京都生まれ。80年代「編集工学」を提唱し、2000年代に「日本という方法」と「ブックウェア」という独自のコンセプトを掲げ、国内外のプロジェクト・イベント・メディアに応用。古今・東西・文理を縦横無尽につなぎ「新たな価値」を見出すことで絶大な支持を集める。著作に『自然学曼荼羅』『知の編集工学』『フラジャイル』『日本流』『山水思想』『世界と日本の見方』『多読術』『擬』『千夜千冊エディション』シリーズ他多数。編著に『全宇宙史』『情報の歴史』他。

プロデューサー

**和泉佳奈子** (いずみ・かなこ)

松岡正剛事務所マネージャー

1977年仙台生まれ。2002年入社。松岡正剛の仕事を通して多彩なプロジェクトを担当。藤本晴美ほか各界で活躍する極上の本物と出会い、空間演出、企画構成、メディア制作のプロデューススキルを磨く。織部賞、松丸本舗、連塾、CI開発やCM制作ほか多数。連塾「ブックパーティスパイラル」では本市・本談・本宴を実施。また、ユニークな場づくりを目指し2015年に「そ乃香」プロジェクトを立ち上げ、人・物・事・本をネットワーク中。2017年より「共読プロジェクト」参画。

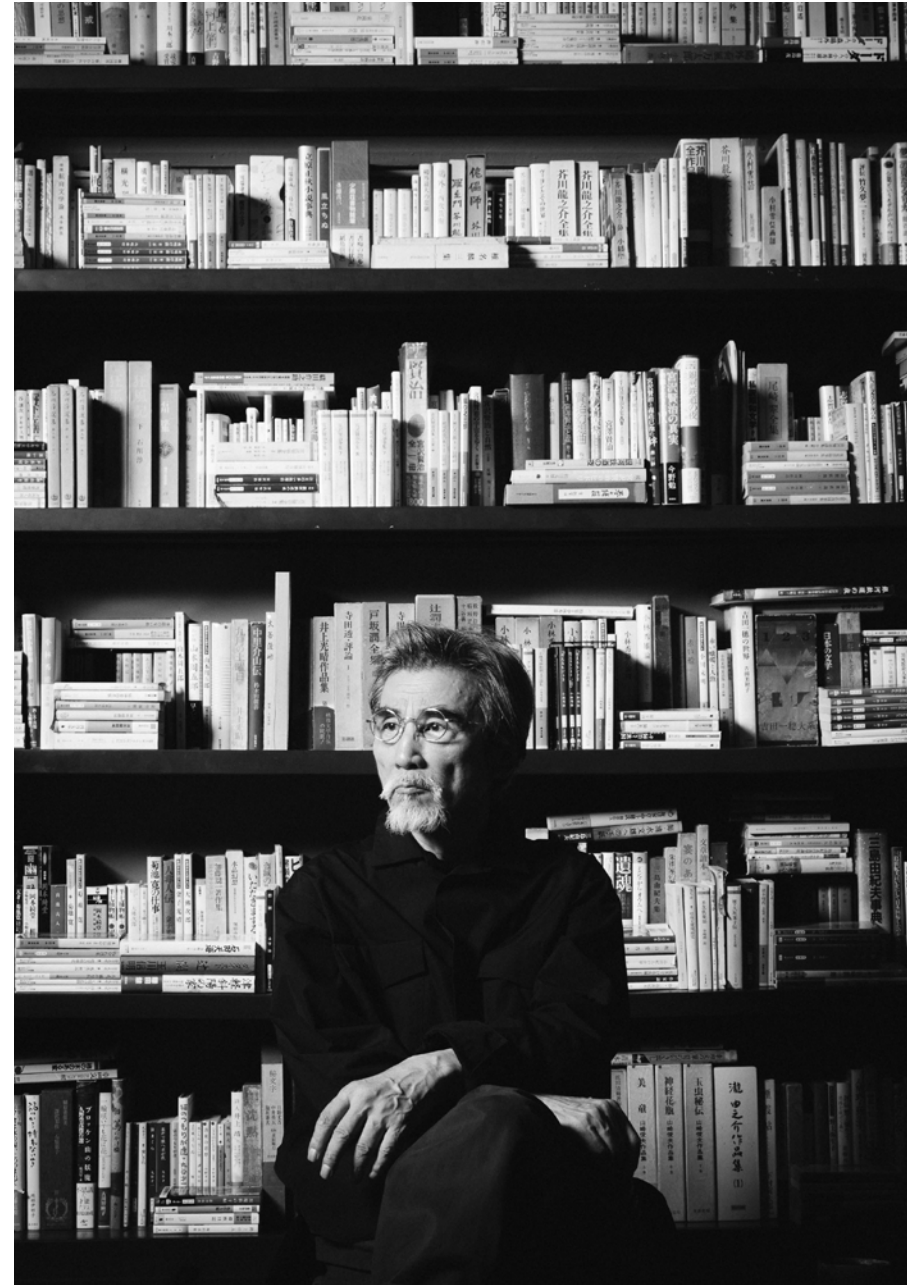
ディレクター

**櫛田理** (くしだ・おさむ)

EDITHON 代表

1979年東京生まれ。米国の大学を卒業後、編集工学研究所に入社。松岡正剛に師事し、実験的書店空間「松丸本舗」をはじめとして、企業ライブラリーや大学図書館で選書から企画全体まで総合監修する編集ディレクターとして活動。現在、EDITHON代表。無印良品のMUJIBOOKSディレクターとして国内外の店舗開発や出版に携わる。2018年10月、エジソン出版から松岡正剛著『編集手本』を刊行。共読ライブラリーでは、現在まで数々の企画を立ち上げる。

<写真>p.142:松岡正剛 / p.141上: 和泉佳奈子 / p.141下: 櫛田理



# プロジェクト・メンバーズ

学生の背中を押し、読書の世界をひろげ、共読と社会をつなぎます。

## 小山恵美子

帝京大学メディアライブラリーセンター  
館長  
大学院 教職研究科 教授



読書は個人的な楽しみ…と思っていた。しかし、本学の学生サポーターによる「共読ライブラリー」の取り組みに触れる機会を得、それを企画運営しているMELICのスタッフの創造的な活動の様子を知り、読書とは共同的に取り組むことで新たな楽しさが生まれ、深い学びにつながるということを学んだ。「本を読み合い、薦め合い、評し合う」、それが「共読」。「共読ライブラリー」のさまざまな取り組みは、MELICに入ったその場で見て、感じて、共有することができる。「ビブリオバトル」も含め、学生の個性あふれる「共読」の世界をぜひ一度共有していただきたい。

## 杉浦史和

帝京大学メディアライブラリーセンター  
副館長  
経済学部 国際経済学科 教授



現在、教育現場におけるアクティブ・ラーニングの必要性が叫ばれている。学生が「自由に」、「主体的に」、「能動的に」学ぶ必要があるという。ではどうすればよいのだろうか。「共読」はその答えの一つになりうる。なぜなら、学生が数多ある書籍の中から「自由に」本を選ぶ。限られた時間をやりくりしつつ「主体的に」時間を作って本を読みこむ。読んだ感想をただまとめるだけでなく「能動的に」本を他者に薦める。MELICは帝京大学のアクティブ・ラーニングの旗振り役になれそうだ。





## 立木加奈子 (たつき・かなこ)

帝京大学 学術情報グループ

学生、教員、ナビゲーター。様々な立場の人たちが交わしあい、新たな読者へつなぐ珠玉のリコメンド文がうまれます。読書術コースは、大学のカリキュラムと連動したプログラムを目指し、さらに進化を続けます！



## 小林由佳 (こばやし・ゆか)

帝京大学 学術情報グループ

イベントや交流会。共読について活き活きと語るサポーターズの姿がとても頼もしく思えます。本から広がる可能性を感じつつ、学生達の勢いに負けない姿勢でありたいという思いを強くしています。



## 古屋敷果歩 (ふるやしき・かほ)

帝京大学 学術情報グループ

MELICでの業務に従事する中で図書館が本を読むだけの場所ではないことに気づきました。図書館の枠を超え、学修支援の輪を広げていく共読ライブラリープロジェクトとともに、私も成長していきます。

## 森亮樹 (もり・かつき)

共読ライブラリーに携わって半年。学生、教員、職員が一丸となって取り組むこのプロジェクトがどれだけ多くの価値を生み出しているか、いまだ全体像を把握しきれない反省とともに、その膨大さに日々驚嘆しています。

## 水野宏美 (みずの・ひろみ)

共読ライブラリーは本を介して人のつながりを広げ、新たな読書の側面を見せてくれます。一人読書ではたどりつけない世界を楽しむことができるので、私も常に刺激を受けています。

## 菅沼真由 (すがぬま・まゆ)

相手がいて完成する読書。共読というコミュニケーション手段。本と人との面白い相関関係を共読ライブラリーの活動を通じてもっと多くの人に発信したい。



## 中嶋康 (なかじま・やすし)

帝京大学 学術情報グループ  
グループリーダー

8年前、共読ライブラリーは大学全体で読書するシステムの構築を目指し、偶然出会う読書の機会を必然化する仕組み作りと、一般社会に通用する空間デザインで学生が「ここにいたい」と思える図書館を作る事から始まった。そして今、私たちはどこまで目標に近づけたのか？ 何が足りないのか？ 道に迷っていないか？ これは現在地を知るための中間報告書という地図でありマイルストーンである。



## 中満恒子 (なかみつ・つねこ)

帝京大学 学術情報グループ チームリーダー

企画も8年を超え、卵がひなに育ちつつある事を実感しています。何より成長を感じるのは、6つの研修を受けた本の学生プロ「共読サポーターズ」。彼らと共にユニークな学生協働を目指します。



## 堀野貞美 (ほりの・さだみ)

帝京大学 学術情報グループ チームリーダー

大学生は本を読まない。こんな言葉は嫌というほど聞かされたけれど、私たちの声に応えて活動してくれる学生の姿を見ると元気づけられます。これからも、本を楽しむ仕掛けづくりに取り組んでいきます。



## 辺見純子 (へんみ・じゅんこ)

帝京大学 学術情報グループ チームリーダー

人と本をつなぐ黒板本棚の誕生でMELICは「読書」と正面から向き合う図書館へと舵を切った。音楽やスマホと同じように、自然と読書がしたくなる環境を学生が核となる有機的な繋がりの中で構築していきたい。

# メディア掲載一覧

○発表・講演・出版 ●メディア ○論文

## 2018年度

- 7月「大学選びの新常識 2019年度版」p.2-3
- 7月「Career Guidance」Vol.423, p.50
- 07.23 講演会・施設見学会「学びをデザインする」世界のラーニングコモンズ最前線—学生のアイデアを形にする学習空間の作り方—【講演】John Augeli
- 8月「AERA MOOK就職力で選ぶ 大学2019」p.12-13.進化する大学図書館
- 8月「マナビゲート2018」p.30-31.大学の学びってどんなもの
- 08.12「サンデー毎日 2018.8.12号」p.112-113
- 08.18-19 学び体験フェア「マナビゲート」(東京国際フォーラム)
- 09.06-07 第8回大学図書館学生協同交流シンポジウム(広島大学)
- 10.30-11.01 第20回図書館総合展
- 11.28 出前授業「本の帯づくりワークショップ」(八王子市立川口中学校)
- 11.30 大学生協研究会「大学生の読書を考える」(四ツ谷プラザエフ)
- 12.16 『書評キャンパスat読書人』刊行記念イベント
- 02.27 「SKYWARD」第59巻3号687号

## 2017年度

- 04.07-14「週刊読書人」『書評キャンパス 大学生がススめる本』に書評掲載
- 06.01 New EducationEXPO2017(東京ファッションタウンビル)【講演】中嶋康:進化するラーニングコモンズ~それぞれの立場、視点から~
- 07.05「日本経済新聞」朝刊27面 発見・交流、図書館で変わる役割、学生も一役
- 09.27 ビブリオバトルinベネッセ(ベネッセコーポレーション東京ビル)
- 09.30 第34回全国都市緑化はちおうじフェア 帝京大学 走るグリーンライブラリー~共読ブックルがやってくる~
- 11.07-09 第19回図書館総合展
- 11.21 沖縄県立図書館協会研修会(沖縄県立図書館)【講演】中嶋康・中満恒子:共読ライブラリーによる学修支援の試み/堀野貞美ほか:読書術体感ワークショップ
- 12.15 私立大学キャンパスシステム研究会第4分科会 メディアライブラリーセンターが目指す「共読するシステム」事例報告:堀野貞美
- 02.16 国立大学図書館協会地区協会助成事業(東京地区) 職員企画研修会(東京学芸大学附属図書館)にて事例報告

## 2016年度

- 09.28 ビブリオバトルinベネッセ(ベネッセコーポレーション東京ビル)

○11.08-10 第18回図書館総合展

○02.28 日本ベンクラブ共催シンポジウム「日本文学、世界文学のいま」【講演】浅田次郎、田村さと子ほか

## 2015年度

- 6月「東京人」7月増刊号. No.356, p.112-113. 帝京大学 歴史をしのぐ未来へキャンパスの特色を活かした「自分流」を磨く図書館
- 06.30 齊藤道子著「首都圏大学図書館ガイド オトナの知的空間案内」メイツ出版 p.40-43
- 09.08 第5回大学図書館学生協働交流シンポジウム(梅光学院大学)【講演】中嶋康:共読サポーターズとつくる人・本・学びの新しいカタチ—リコメンドが循環するアクティブキャンパスを目指して—/堀野貞美ほか:読書術体感ワークショップ
- 09.15「河北新報」11面(文化面)君の悩みに効く本推薦 伊坂さん学生に親身に回答—仙台・紀伊國屋書店でフェア
- 10.22 平成27年度神奈川県立図書館協会 職員研修会(帝京大学メディアライブラリーセンター)【講演】中嶋康:「共読ライブラリー」の今とこれから—いま大学図書館に求められる教育連携と学修支援
- 10.24「リビング多摩」『図書館活用術』特集.ラインナップに特徴あり! ユニーク図書館
- 11.10-12 第17回図書館総合展
- 12月「みんなの大学」Vol.12, p.23. 読書体験をみんなで共有する「共読ライブラリー」
- 12.09 埼玉県大学・短期大学図書館協議会第27回研修会(跡見学園女子大学 新座キャンパス)【講演】中嶋康:帝京大学共読ライブラリープロジェクトにおける「協働」の試み 教員・学生・外部のプロとの協働の実際
- 12.24 松岡正剛・イシス編集学校著「インタースコア: 共読する方法の学校」春秋社 p.165,397,479,484-485,517.
- 3月「Flair」50周年記念号. p.26-29. 読む、伝える—。言葉を糧に世界を広げる。

## 2014年度

- 04.01「高校生の保護者のためのCareer Guidance」2014年度版, リクルート, p.38-39. 「知」の集積、交流を促す最新図書館。学習意欲に火をつけ、士力も向上
- 05.23 私立大学キャンパスシステム研究会第4分科会 【講演】中嶋康, 中満恒子:「共読ライブラリー」による学修支援の試み—いま大学図書館に求められる教育連携と学修支援
- 7月 立木加奈子, 堀野貞美 「展示も読書もコミュニケーション—共読ライブラリーとMONDO書架—」『こどもの図書館』, 2014, vol.61, no.7, p.2-4.
- 07.03「毎日新聞」朝刊 帝京大学図書館日曜日も開館
- 07.05「東京新聞」朝刊 大学の「知」の資源生かして

- 07.09 J-COM八王子・日野「デイリーニュース」帝京大学の図書館が日曜日も利用可能に
- 07.23「学生の意識と行動に関する研究会」全国大学生協連後援(アルカディア市ヶ谷)【講演】中嶋康, 中満恒子:「共読ライブラリー」による学修支援の試み～いま大学図書館に求められる教育連携と学修支援～
- 08.05「朝日新聞」朝刊 開かれる大学図書館 利用者増へ試み様々 帝京大八王子日曜開館
- 08.06「教育学術新聞」第2574号「学生と読書」めぐって論議 帝京大と桜美林大が報告
- 08.08「日経MJ」4面丸善CHI系大学図書館の運営支援 学生に読書習慣、知恵絞る
- 09月「Campus Life」Vol.40, p.12-15. 大学図書館が学生とともに仕掛ける読書推進活動
- 09月「Flair」95号, p.18-21. MELICでブックセレクト体験しよう!
- 09.03「東京人」10月号 p.116-123. 読書をシェアする、さまざまなカタチ。
- 09.06 NHK大阪「あほやねん、すきやねん」「時事っち」コーナーにて紹介
- 10.09「朝日新聞」朝刊教育面 p.34. 学びを語る、若者の読書離れ、「読むのが恰好いい」空間づくりを
- 10.29「日本経済新聞」夕刊p.17. 大学生読書のススメ 著名人が紹介 学生がプレゼン
- 11.05-07 第16回図書館総合展
- 11.14「朝日新聞」朝刊p.31. 本が結ぶ新たな出会い、大学図書館が取り組む「読書の秋」
- 12.01 別冊「出版甲子園」第1号, p.16-19.もう図書館で寝てられない!
- 12.08 第22回静岡県図書館大会第7分科会(静岡県コンベンションアーツセンター)【講演】中嶋康, 中満恒子:学修を支援する読書推進活動～帝京大学の「共読ライブラリー」プロジェクトにおける読書推進の取り組み～/MELIC職員:ワークショップ
- 12.10 NHK「クローズアップ現代」広がる“読書ゼロ”～日本人に何が～
- 12.30「毎日新聞」朝刊家庭面p13. くらしナビ・学ぶ:@大学 情報発信基地を目指せ 学内図書館、本との出会い作りに工夫
- 01.26「日本経済新聞」朝刊19面 大学図書館 新たな活気
- 03.05 第17回図書館総合展出展者募集説明会 基調講演(日比谷図書文化館)【講演】中嶋康:共読ライブラリーから考える大学図書館の成長戦略と、図書館総合展に期待すること

## 2013年度

- 4月 辺見純子, 中嶋康「第14回図書館総合展:「共読ライブラリー」初めてのフォーラム&ブレス出展記—図書館総合展「見る」から「出る」への365日—」『薬学図書館』, 2013, Vol.58, no.2, p.105-111.
- 6月「大学の約束」リクナビ進学2013年版 p.18-21. 松岡正剛. 自由の本質を学べる場を
- 6月「Flair」90号. 特集:図書館がおもしろい!! p.8-11. MELICのトリセツ
- 06.06 New Education Expo 2013(東京ファッションタウンビル)【講演】中嶋康:いま大

- 学図書館に求められる教育連携と学修支援 ～「共読ライブラリー」による学修支援の試み～
- 7月 中嶋康, 辺見純子「「共読ライブラリー」が創る「人」「本」「学び」の未来～帝京大学MELICにおける学修支援～」『大学図書館研究』, 2013, no.97, p.1-12.
- 9月 堀野貞美, 中満恒子「特集, 大学図書館2013:「薦めあい、読みあい、評しあう」新しい読書のカタチと学修支援—帝京大学「共読ライブラリー」の試み—」『図書館雑誌』, 2013, vol.107, no.9, p.568-570.
- 10月「PASSION」金剛株式会社 Vol35 p.1-4.『読書の新たな魅力を創出する「共読ライブラリープロジェクト」への取り組み』
- 10.27「SANKEI EXPRESS」Vol.056 BOOKWARE 松岡正剛. 図書館には「共読」のための工夫がほしい—帝京大学の「黒板本棚」が先頭を切っている
- 10.28「神奈川新聞」朝刊教育面p.5. 帝京大学MELIC「図書館総合展でフォーラム」
- 10.29-31 第15回図書館総合展
- 11.07「琉球新報」21面 人気ビブリオバトル読書の楽しみ大勢で各地に広がる書評ゲーム
- 12.15「ラーコモラボ通信」第29号. 図書館総合展イベントレポート(1)「共読ライブラリー」2年目の挑戦—「学びの力」を獲得する「共読」学習支援プログラムの開発.(久世泰子:東京経済大学図書館)
- 1月 中嶋康「学修支援ツールとしての共読ライブラリー—読書と学修支援の新しいカタチ—」(特集, 変わる大学図書館と学修支援の広がり)『大学時報』2014, no.354, p.58-63

## 2012年度

- 05.18「カレントアウェアネス・ポータル」帝京大学MELIC、松岡正剛氏の編集工学研究所との共同企画「共読ライブラリー」を開始
- 09.24「日経MJ」11面丸善CHI系、学生の本離れ防止へ連携、まず帝京大と。目標50校
- 10.05 松岡正剛著「松丸本舗主義：奇蹟の本屋、3年間の挑戦」青幻舎 p.320-323.
- 11.20-22 第14回図書館総合展(初出展)
- 12.24「ラーコモラボ通信」第17号レポート:「共読ライブラリー」が創る「人」「本」「学び」の未来 図書館を変えるブランド戦略(上田直人:法政大学図書館)
- 12.27「SKYWARD」53(1)p.70-71. feel TEIKYO あなたにつながる帝京大学
- 01.04「東京新聞」夕刊文化面 変わる知の拠点 図書館は今 孤読から共読へ 本から始まるつながり
- 01.23「教育学術新聞」第2511号3面 知の拠点から大学図書館のいま—自立的学習支援にむけて—
- 03.04 秋田喜代美監修こどもくらぶ編「図書館をもっと活用しよう」岩崎書店, p.18-19

# 2018

MITO	どこでも図書館	共読ステーション	黒板本棚	読書術コース	共読サポーターズ
<ul style="list-style-type: none"> <li>● MITOワークショップ開催 (駒形克己氏)</li> <li>● 読書服キックオフ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読カタログ2018-2019発行</li> <li>● ACT3、ACTrium開室</li> <li>● ACT3で学生ピアサポート開始</li> <li>● 講演会「学びをデザインする」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● T-MONDO帝京卒作家の書籍展示</li> <li>● T-MONDO中学生職場体験ワークショップ</li> <li>● T-MONDO月例ビブリオバトル紹介本展示</li> <li>● C-MONDO「先生の本棚」</li> <li>● C-MONDOブックバトン (MELICガイダンス運動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書術プログラムの一部改訂</li> <li>● 教育学部:416名受講</li> <li>● 史学科:210名受講</li> <li>● 短大:111名受講</li> <li>● スポーツ医療学科:318名受講</li> <li>● リコメンド大賞開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読サポーターズ7期70名 (新規37名、継続33名)</li> <li>● 「マナビゲート」出版</li> <li>● 「第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム」参加</li> <li>● 全国大学ビブリオバトル地区決戦予選会</li> <li>● MONDOストリートコンテスト</li> <li>● 共読アワード</li> <li>● 学園祭で「共読フェスタ2018」</li> <li>● 図書館総合展7回目出版</li> <li>● 第3回全国学生協働サミット参加</li> <li>● 八王子市立川口中学校「出前授業」</li> <li>● 「大学生の読書を考える」登壇</li> <li>● 「サポーターズフォーラム2018」参加</li> <li>● 「書評キャンパスat読書人」刊行記念イベント登壇</li> <li>● 「選書フェア(紀伊國屋書店)」開催</li> <li>● 「入門!ガクモン」著者との対談</li> </ul>

# 2017

<ul style="list-style-type: none"> <li>● MITOワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「オカモチ」導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読カタログ2017-2018発行</li> <li>● OPAC台リニューアル</li> <li>● OPACにBOOK BATON搭載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● T-MONDO帝京卒作家の書籍展示</li> <li>● T-MONDO中学生職場体験ワークショップ</li> <li>● T-MONDO月例ビブリオバトル紹介本展示</li> <li>● C-MONDO「先生の本棚」</li> <li>● C-MONDOブックバトン (MELICガイダンス運動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 八王子キャンパス職員がSDとして受講</li> <li>● 読書術コースプログラムの改訂(メクリ導入)</li> <li>● 教育学部:319名受講</li> <li>● 史学科:226名受講</li> <li>● 短大:52名受講</li> <li>● スポーツ医療学科:375名受講</li> <li>● リコメンド大賞開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読サポーターズ6期58名 (新規31名、継続27名)</li> <li>● 全国大学ビブリオバトル地区決戦予選会</li> <li>● MONDOストリートコンテスト</li> <li>● 共読アワード開催</li> <li>● 学園祭で「共読フェスタ2017」</li> <li>● 「週刊読書人」に共読サポーターの書評掲載</li> <li>● ビブリオバトルinベネッセ開催</li> <li>● 「全国都市緑化はちおうじフェア」に出展</li> <li>● 図書館総合展6回目出版</li> <li>● 第2回全国学生協働サミット参加</li> <li>● 八王子市立由木中央小学校ビブリオバトルのサポート</li> <li>● 全国大学ビブリオバトル首都決戦出場</li> </ul>
---	--	---	---	--	---

# 2016

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どこでも図書館「ブックル」初号機誕生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読タブロイドVer.1発行</li> <li>● 日本ベンクラブシンポジウム開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● L-MONDOテーマ:「共読トラベラーズ」</li> <li>● T-MONDO帝京卒作家の書籍展示</li> <li>● T-MONDO中学生職場体験ワークショップ</li> <li>● T-MONDO月例ビブリオバトル紹介本展示</li> <li>● C-MONDO「先生の本棚」</li> <li>● C-MONDOブックバトン (MELICガイダンス運動)</li> <li>● MONDO格子屏風50周年記念展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育学部:338名受講</li> <li>● 史学科:178名受講</li> <li>● 短大:44名受講</li> <li>● スポーツ医療学科:314名受講</li> <li>● リコメンド大賞開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共読サポーターズ5期59名 (5期23名、継続36名)</li> <li>● 研修制度のリニューアル</li> <li>● 学園祭で「共読フェスタ2016」</li> <li>● 全国大学ビブリオバトル地区決戦予選会</li> <li>● MONDOストリートコンテスト</li> <li>● 共読アワード開催</li> <li>● ビブリオバトルinベネッセ開催</li> <li>● 図書館総合展5回目出版フォーラムに</li> <li>● 沖永理事長・学長登壇</li> <li>● 第1回全国学生協働サミットに共読サポーター登壇</li> </ul>
--	--	---	---	---	--

MITO	どこでも図書館	共読ステーション	黒板本棚	読書術コース	共読サポーターズ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>MONDOストリート拡充(3・4Fで52枚に)</li> <li>MONDO屏風(柱巻)設置</li> <li>MONDO格子屏風設置</li> <li>MONDOストリートサイン拡充</li> <li>共読カタログ2015-2016発行</li> <li>ACT(アクト)計画開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-MONDO「共読トラベラーズ」</li> <li>T-MONDOで帝京大学創立50周年記念棚展示</li> <li>C-MONDO「先生の本棚」</li> <li>S-MONDOゲスト⑤伊坂幸太郎</li> <li>紀伊國屋書店にてS-MONDOフェア実施</li> <li>「BOOK BATON」によるリコメンド相互循環開始</li> <li>S-MONDOゲスト⑥成毛眞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部:346名受講 史学科:219名受講 短大:63名受講</li> <li>スポーツ医療学科:366名受講</li> <li>リコメンド大賞開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共読サポーターズ4期63名(4期36名,継続27名)</li> <li>サポーターズ副板ワークショップ実施</li> <li>学園祭で「共読フェスタ2015」</li> <li>MONDOストリートコンテスト</li> <li>ピリオバトル地区第1回教職員大会</li> <li>全国大学ピリオバトル地区決選予選会</li> <li>図書館総合展4回目出展</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>OPACリコメンド機能との連動企画始動</li> <li>共読カタログ2014-2015発行</li> <li>サポーターズオリジナルポロシャツ作成</li> <li>共読オリジナル「帯」作成</li> <li>MELIC利用案内リニューアル</li> <li>MELIC日曜開館スタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-MONDOテーマ:共読クリニック</li> <li>T-MONDOで帝京卒作家の書籍展示</li> <li>S-MONDOゲスト③知花くらら</li> <li>S-MONDOゲスト回答贈呈式</li> <li>紀伊國屋新宿本店にてMONDO書架出張展示販売</li> <li>C-MONDO(先生の本棚)</li> <li>S-MONDOゲスト④水道橋博士</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書術カリキュラム改変</li> <li>教育学部:354名受講 史学科:231名受講 短大:65名受講</li> <li>リコメンド大賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共読サポーターズ3期44名(3期27名,継続17名)</li> <li>学園祭で「共読フェスタ2014」</li> <li>運営体制の組織化</li> <li>全国ピリオバトル京都決勝戦出場</li> <li>棚づくりワークショップ実施</li> <li>図書館総合展3回目出展</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>4FにMONDOストリート出現</li> <li>1FにMONDO書架増設</li> <li>MONDOルーム設置</li> <li>MELIC公式Webサイトリニューアル</li> <li>共読ライブラリーWebサイト立ち上げ</li> <li>共読カタログ2013発行</li> <li>Facebook、Twitterを開設</li> <li>共読ガチャガチャ「缶バッチ&amp;本みくじ」制作</li> <li>共読オリジナル「リコメンドカード」作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-MONDOテーマ:五感「ワンダーボックス Books for WONDER」</li> <li>L-MONDOテーマ:「東日本大震災」</li> <li>C-MONDO「先生の本棚」</li> <li>T-MONDO:ワークショップ連動型サポーターズの本棚</li> <li>NewBooksの貸出率上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部:288名受講 史学科:181名受講 短大:61名受講</li> <li>読了証配付</li> <li>読書術CW改定計画開始</li> <li>リコメンド文の表彰イベント実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共読サポーターズ2期37名(2期22名,継続15名)</li> <li>ピリオバトル定期開催</li> <li>学園祭で「共読フェスタ」初開催</li> <li>三冊共読ワークショップ実施</li> <li>共読サポーターズ棚定期制作開始</li> <li>図書館総合展2回目出展</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>共読サイン計画開始</li> <li>共読カタログVer1発行</li> <li>共読オリジナル「POP」設置</li> <li>共読オリジナル「菜」配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>S-MONDO第1回ゲスト選定</li> <li>1FエントランスにMONDO書架(6基)出現</li> <li>C-MONDOテーマ:仕事「はたらく」</li> <li>L-MONDOテーマ:東京「Tokyo」</li> <li>L-MONDOテーマ:「東日本大震災」</li> <li>NewBooks週替りで展開</li> <li>C-MONDO(先生の本棚)スタート</li> <li>T-MONDOテーマ:「帝京卒業生の棚(松本薫)」</li> <li>S-MONDOゲスト①又吉直樹</li> <li>S-MONDOゲスト②蒼井優</li> <li>S-MONDOゲスト回答贈呈式</li> <li>L-MONDOテーマ:おいしい本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部:323名受講</li> <li>読了証配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共読サポーターズ1期18名始動</li> <li>目次読書法ワークショップ実施</li> <li>三冊共読ワークショップ実施</li> <li>棚づくりワークショップ実施</li> <li>図書館総合展初出展</li> <li>他大学との交流開始</li> </ul>

# 2015

# 2014

# 2013

# 2012

- 共読ライブラリー始動
- 冲永理事長・学長×松岡正剛氏対談

# 2011

- 共読ライブラリーキックオフ
- 冲永理事長・学長×松岡正剛氏顔合わせ



共読ライブラリーのお問い合わせ

## 帝京大学メディアライブラリーセンター

中満恒子(ナカミツ・ツネコ)／堀野貞美(ホリノ・サダミ)

〒192-0395 東京都八王子市大塚359

TEL: 042-678-3407 FAX: 042-674-8876

E-mail: lib-all@main.teikyo-u.ac.jp

<https://appsv.main.teikyo-u.ac.jp/tosho/tos.html>



## INTRODUCTION

共読ライブラリー	7
冲永佳史 帝京大学理事長・学長	11
松岡正剛 共読スーパーバイザー	15

## PROJECT

6つのプロジェクト	19
PROJECT 1	MITO 23
	MITO第1弾 色覚絵本 / デザイナー 駒形克己
	MITO第2弾 読書服 / デザイナー 川西遼平
PROJECT 2	どこでも図書館 43
PROJECT 3	共読ステーション 47
PROJECT 4	黒板本棚 51
	読書家著名人との問答 / 先生との問答
	帝京生との問答 / 特集企画棚 / 新着本棚
	MONDOストリート / ブックバトン
PROJECT 5	読書術コース 87
	読書術コース体験談 / リコメンド大賞
PROJECT 6	共読サポーターズ 99
	研修プログラム / 棚づくりと書評 /
	キャンパスを超えて / わたしを変えた1冊 /
	サポーターズ卒業生 / 図書館総合展

ARTICLES	共読ライブラリーの可能性	131
----------	--------------	-----

MEMBERS	パートナーズ / メンバーズ	139
---------	----------------	-----

MEDIA REPORT	メディア掲載一覧	147
--------------	----------	-----

CHRONICLE	年譜	151
-----------	----	-----

共読ライブラリーのお問い合わせ	157
-----------------	-----

## 共読カタログ 2019-2020 KYODOKU LIBRARY

製作 帝京大学メディアライブラリーセンター  
Teikyo University  
Media Library Center (MELIC)

企画構成 EDITHON  
編集進行 松岡正剛事務所  
デザイン MIKAN-DESIGN  
協力 編集工学研究所  
印刷製本 図書印刷

発行日 2019年11月12日

発行 学校法人 帝京大学

